

令和2年度

(令和元年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



令和2年8月

桶川市教育委員会

あいさつ

はじめに、新型コロナウイルスにより罹患された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令を受けて、桶川市においても昨年度末から引き続き、小・中学校の臨時休業や、社会教育施設の休館という状況で始まりました。緊急事態宣言の解除後も、各施設で利用制限などをお願いしており、皆様の深いご理解とご協力に厚く感謝申し上げます。

さて、桶川市では、基本理念である「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」の実現に向け、学校教育・社会教育の各分野で様々な取組を進めております。

今年度は文部科学省が提唱するGIGAスクール構想の実現のため、児童生徒に1人1台端末を整備するとともに、市内小・中学校に高速大容量の通信ネットワーク環境の整備を行い、ICTを活用した新たな学びの場を創出してまいります。

点検評価報告書は、桶川市の教育行政について、皆様にも分かりやすく読んでいただけるものになっています。また、客観性を確保するために、2名の学識経験者からご意見をいただき、巻末に掲載しております。

現状では、感染症予防が必要な状況が続いておりますので、子供たちをはじめ保護者や市民の皆様が、学校や社会教育施設を安心して利用できるよう対策を講じてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和2年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿（令和2年8月26日現在）

教育長	岩田 泉
教育長職務代理者	水村 実男
委員	青木 健志
委員	秋山 節子
委員	小野原 典子
委員	西永 和子

学識経験者

桶川市立加納中学校元校長	放課後子供教室コーディネーター	永原 敏明
桶川市社会教育委員	桶川市青少年問題協議会委員	吉村 史朗

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

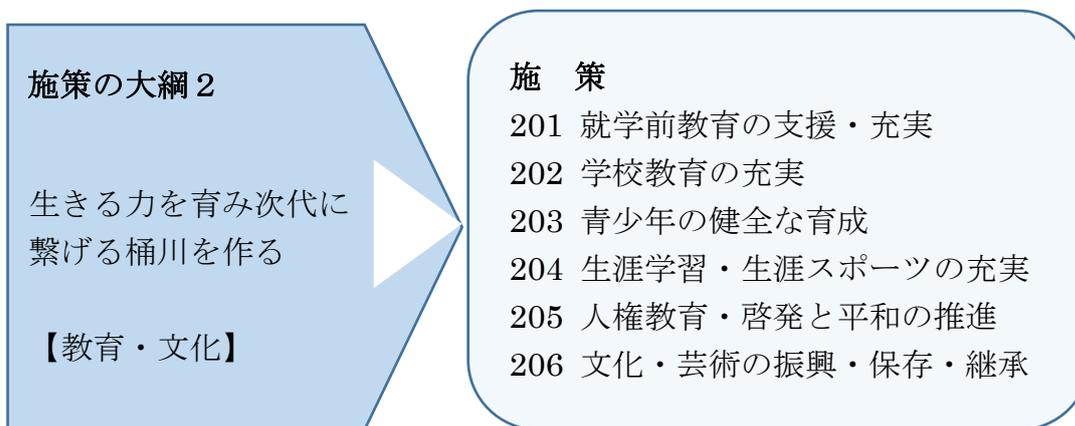
点検及び評価の基本方針

(1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、学識経験を有する方の知見を活用しながら今後の効果的な教育行政を推進するとともに、皆様への説明責任を果たしていくことを目的としてこの報告書を作成しました。

(2) 点検及び評価の対象と方法

この報告書では、「桶川市第五次総合振興計画後期基本計画」の施策の大綱2「生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる」に設定されている6つの「施策」を基に、別刊「桶川の教育」で示したとおり事業を体系化し、「事業実績」、「実績及び目標（値）に対する評価」、「令和2年度以降の取組方針」、「令和2年度の目標（値）」について、点検及び評価を実施しました。



※桶川市第五次総合振興計画 後期計画 施策の体系より抜粋

目 次

令和元年度桶川市教育委員会事業体系			1
教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）			
課（館）名	第五次総合振興計画の施策	事業名	
教育総務課	就学前教育の支援・充実	幼稚園就園奨励事業	3
		入学準備金貸付事業	4
	学校教育の充実	小学校整備事業	5
		中学校整備事業	6
学校支援課 教育総務課	学校教育の充実	ICT教育推進事業	7
学校支援課	学校教育の充実	小・中学校給食業務	9
		補助員配置事業	12
		学校図書館教育補助員配置事業	14
		英語指導助手配置事業	15
		教育相談事業	17
		中学校社会体験チャレンジ事業	20
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	22
		ことばの教室事業	23
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	24
		学校応援団推進事業	26
		教職員の資質・能力の向上推進事業	27
	人権教育・啓発と平和の推進	学校教育における人権教育の推進事業	30
	学校教育の充実	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	32
		福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業	33
小・中学校図書購入事業		34	
学務課 学校支援課	学校教育の充実	就学援助事業	35
学務課	学校教育の充実	学校評議員会の設置事業	36
		学校関係者評価委員会の設置事業	37
		学校運営協議会設立準備委員会の設置事業	38
		学校運営協議会の設置事業	39
		教職員の管理業務	40
		教職員の資質・能力の向上推進事業	41

生涯学習文化財	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	42
		P T A家庭教育講演会	43
		「親の学習」講座	44
	青少年の健全な育成	成人式典	46
		放課後子供教室事業	47
		青少年健全育成事業	49
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	51
		職員出前講座	52
		市民大学の開催	54
		文芸桶川発行	56
		パソコン講習とサポート事業	57
		生涯学習推進体制の整備	58
		学習ボランティア推進事業	60
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	61
	文化・芸術の振興・保存・継承	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業	63
		民俗芸能保存事業交付金交付事業	65
		後谷遺跡出土品保存処理事業	67
		指定文化財調査事業	68
	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	70
		図書館業務推進事業	71
	スポーツ振興課	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業
スポーツ団体への支援事業			73
スポーツ施設維持管理事業			75
公民館	就学前教育の支援・充実	幼児・家庭教育セミナー事業	77
	生涯学習・生涯スポーツの充実	講座開催事業	78
		公民館業務運営事業	79
歴史民俗資料館	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	80
		川田谷生涯学習センター大規模改修事業	81
	文化・芸術の振興・保存・継承	資料調査・収蔵事業	82
		教育普及事業	83
点検評価報告書に対する意見			85

令和元年度桶川市教育委員会事業体系

※「桶川の教育」より

基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

基本目標	基本事業	ページ
I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	① 幼児教育の支援	3
	② 学校教育への支援の充実	4, 35
	③ 学校環境の整備・充実	5～7, 12, 14, 34
	④ 学校の組織運営の改善	36～41
	⑤ 小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進	27
	⑥ 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	15, 27
	⑦ 時代の変化に対応する教育の推進	7, 15, 27
	⑧ 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	20, 22
	⑨ 共生社会を支える特別支援教育の推進	23, 24
	⑩ 教職員の資質能力の向上	27, 30, 41
II 豊かな心の育成と人権意識の高揚	① 「桶川市人権教育基本方針」の具現化	61
	② 社会教育における人権教育の推進	61
	③ 学校教育における人権教育の推進	30
	④ 豊かな心を育む教育の推進	27, 71
	⑤ 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の充実	27
	⑥ いじめ・不登校の未然防止の推進	17
III 健やかな躰（からだ）の育成	① 体力向上を目指した学校体育の充実	27
	② 食育の推進を通じた健康教育の充実	9, 27
	③ 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進	26
	④ 各種スポーツ団体への支援	73
	⑤ スポーツ・レクリエーション活動の普及	70, 75

IV 家庭・地域の 教育力の向上	① 家庭教育の支援	42～44
	② 青少年健全育成の推進	49
	③ 地域・学校と連携した教育環境の整備	47, 54
	④ 幼児・家庭教育セミナーの開催	77
	⑤ 学校応援団の充実	26
V 生涯にわたる 学びとスポーツ の支援	① 学習情報の提供と学習相談体制の充実	51, 57
	② 学習機会の整備・推進	52, 56, 61, 80, 81
	③ ライフステージに応じた市民との協働による学習の推進	46, 54, 57, 60
	④ ボランティアの育成と連携	33, 60
	⑤ 生涯学習推進体制の整備	58
	⑥ スポーツ推進委員の育成	72
	⑦ スポーツ・レクリエーション指導者の育成	72
	⑧ スポーツ・レクリエーション施設の整備	75
	⑨ 多様な学習や活動の機会の充実	70, 71, 78, 79
	⑩ 図書館サービスの充実	70, 71
	⑪ 読書会等の活動の支援・育成	71
	⑫ 歴史民俗資料館事業の充実	82, 83
VI 伝統文化・芸 術の振興と文 化財の保存・ 活用の推進	① 文化財保護事業の推進	65, 68
	② 文化財保存事業の推進	63, 65, 67, 82
	③ 郷土文化伝承活動の推進	83
	④ 博学連携事業の推進	83

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	幼稚園就園奨励費の拡充（2013）		
事業名	幼稚園就園奨励事業		
予算額	40,689,000円	決算額	39,945,800円

1 事業概要

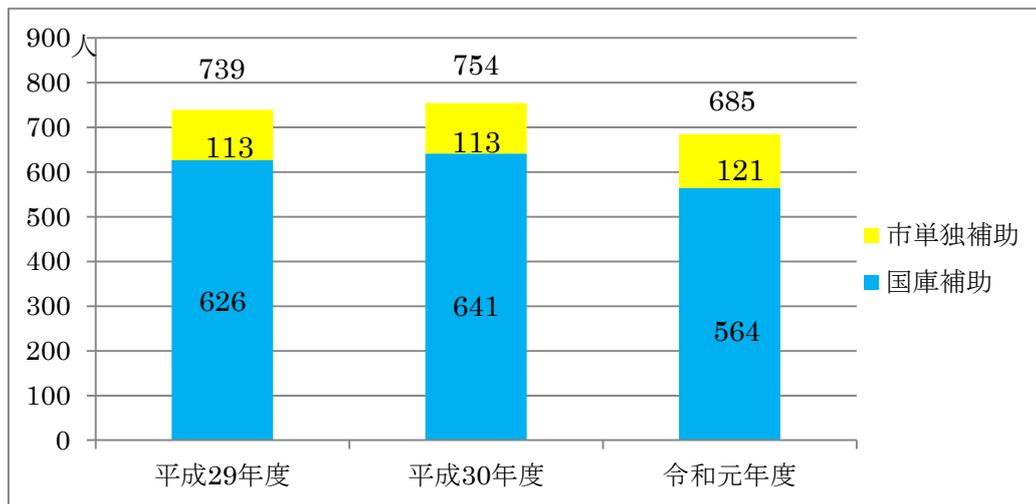
幼児教育における園児保護者の経済的負担の軽減を図るため、国費による就園奨励費補助事業に加え、市費による補助事業も併せて行った。

2 事業実績

(1) 幼稚園就園奨励費補助金

国庫補助対象分として564人、39,367,300円、市単独補助分として121人、413,100円を補助した。※H31.4～R元.9月分について対象

＜過去3年間の補助対象者数の推移＞



(2) 私立幼稚園事務費助成金

幼稚園就園奨励費補助金の事務に対する補助として、市内4園に対し、総額165,400円を交付した。

※ 令和元年10月1日から幼児教育保育無償化制度が開始されたことに伴い、幼稚園就園奨励費補助金は令和元年9月末日で終了した。

3 上記2に対する評価

- ・幼稚園教育を希望する保護者や対象の幼稚園に対し必要な措置を行うことができた。
- ・保護者に対し、制度の終了についてホームページや案内文書で適切な案内ができた。

4 今後の取組方針

- ・令和2年度から幼児教育無償化事務については保育課で実施する。

5 令和2年度の目標（値）

令和2年度から幼児教育無償化事務については保育課で実施するため、目標値は設定していない。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	4,400,000円	決算額	3,550,000円

1 事業概要

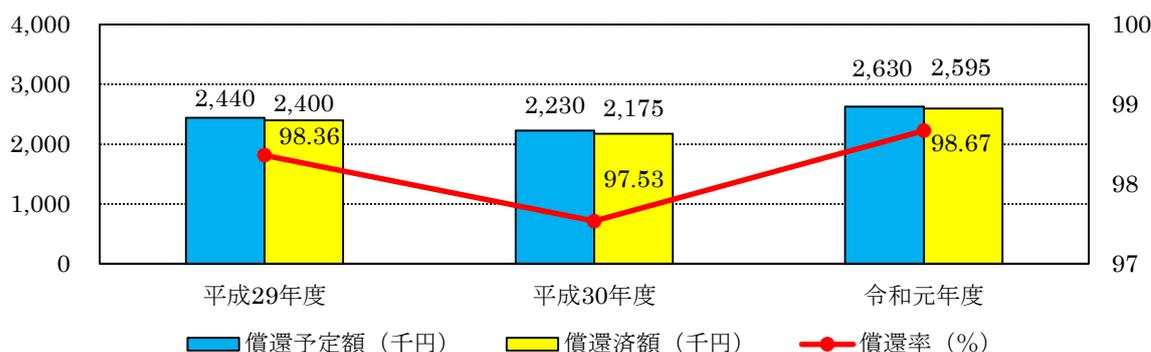
経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、専門学校、大学等への入学にかかる費用の貸付を行った。

2 事業実績

(1) 貸付状況

年度	貸付金額	件数	内訳		
H29	2,600,000円	10	高校 7、	専門学校 0、	大学 3
H30	3,600,000円	13	高校 8、	専門学校 0、	大学 5
R1	3,550,000円	15	高校 10、	専門学校 2、	大学 3

(2) 現年度償還分の状況



3 上記2に対する評価

- (1) 申請受付開始時期を9月から7月に早めたことで、きめ細やかな相談が実施でき、適切な支援が行えたと考える。
- (2) 未納となった時点で催告通知等の速やかな対応を講じた結果、償還率が向上したと考える。

4 今後の取組方針

- (1) 制度内容や申請方法等について引き続き周知に努め、適切な支援を行う。
- (2) 現年度償還分の未納については、引き続き速やかな対応を行う。
- (3) 滞納繰越分については、訪問等により生活状況を把握し、完納に向けたきめ細やかな納付相談を行うとともに必要な調査を実施し、適切な処理を行う。

5 令和2年度の目標 (値)

- (1) ホームページや中学校で配布する保護者向け案内を見直し、制度への周知を図る。
- (2) 現年度償還分の年度内完納並びに滞納繰越分の縮減
- (3) 新型コロナウイルスの影響により、入学準備金の申請者は増加することも想定されるが、すべての申請者に対して適切な対応を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	1,181,367,000円	決算額 (繰越明許費)	624,321,192円 (379,600,000円)

1 事業概要

学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。

2 事業実績

(1) 老朽化対策（トイレ改修）工事

●実施済 ○実施予定

学校名	H28	H29	H30	R1	R2
加納小	計 画 策 定	●			
桶川小			●		
桶川西小			●	●	
川田谷小			●	●	
桶川東小				●	
朝日小				●	
日出谷小					

桶川西小（北）・川田谷小（北）・桶川東小・朝日小のトイレ等の改修工事を実施すると共に、令和2年度より工事实施の日出谷小の工事設計を委託した。

- ・工事費：576,796,000円
- ・工事監理委託：17,523,000円
- ・工事設計委託：7,975,000円

(2) 安全対策工事（H30 繰越事業）

市内小学校のブロック塀等の安全対策工事を実施した。（6校）

- ・工事費：16,805,591円
(※内、R1 決算額 14,573,722円)
- ・工事監理委託：549,504円

(3) 施設維持工事等

学校の施設維持のため緊急性のあるものなど随時工事等を実施した。（18件）

- ・工事費：6,903,966円

(4) 工事繰越事業

(5) 委託繰越事業

繰越事業	繰越額
老朽化対策工事	233,000,000円
配線工事	66,000,000円
合計	299,000,000円

繰越事業	繰越額
老朽化対策工事監理委託	6,600,000円
情報通信環境構築委託	74,000,000円
合計	80,600,000円

3 上記2に対する評価

- ・緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適切に工事を進めることができた。
- ・「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の計画どおり老朽化対策工事をする事ができた。

4 今後の取組方針

令和2年度で「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づくトイレ等改修工事は、全校完了する。その後は、学校施設の多機能化や長寿命化を図るため計画の見直しを行う。

5 令和2年度の目標（値）

「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、日出谷小学校のトイレ等改修工事を行うとともに、文部科学省が提唱する「GIGAスクール構想」の実現のため、高速インターネット環境等の整備を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	739,815,000円	決算額 (繰越明許費)	48,416,287円 (686,800,000円)

1 事業概要

学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。

2 事業実績

(1) 老朽化対策（トイレ改修）工事

●実施済 ○実施予定

学校名	H28	H29	H30	R1	R2
桶川東中	計画策定	●			
桶川西中			●		
桶川中					○
加納中					○

令和2年度より工事实施の桶川中、加納中の工事設計を委託した。

・工事設計委託：14,223,000円

(2) 安全対策工事（H30 繰越事業）

市内中学校のブロック塀等の安全対策工事を実施した。（3校）

・工事費：37,086,409円
（※内、R1 決算額 27,418,278円）
・工事監理委託：1,178,496円

(3) 施設維持工事等

学校の施設維持のため緊急性のあるものなど随時工事等を実施した。（10件）

・工事費：5,596,513円

(4) 工事繰越事業

(5) 委託繰越事業

繰越事業	繰越額
老朽化対策工事	591,000,000円
配線工事	37,000,000円
合計	628,000,000円

繰越事業	繰越額
老朽化対策工事監理委託	15,800,000円
情報通信環境構築委託	43,000,000円
合計	58,800,000円

3 上記2に対する評価

- ・緊急性や中学校の要望等を踏まえ、適切に工事を進めることができた。
- ・「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の計画どおり老朽化対策工事をする事ができた。

4 今後の取組方針

令和2年度で「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づくトイレ等改修工事は、全校完了する。その後は、学校施設の多機能化や長寿命化を図るため計画の見直しを行う。

5 令和2年度の目標（値）

「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、桶川中学校・加納中学校のトイレ等改修工事を行うとともに、文部科学省が提唱する「GIGAスクール構想」の実現のため、高速インターネット環境等の整備を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ICT教育推進事業		
予算額	60,008,000円	決算額	59,594,236円

1 事業概要

学校におけるICT教育を推進するため、ICT機器を効果的に活用した指導方法の工夫、ICT支援員の活用等を図った。

2 事業実績

(1) ICT機器の活用と指導方法の工夫

タブレットや大型提示装置を活用し、小学校では、理科の実験において、物の溶け方の様子を録画して、実験の様子を確認したり、音楽で、絵描き歌の動画を見せたりした。また、中学校では、家庭科において絵本の朗読を撮影し、共有したり、英語によるパフォーマンステストを撮影し、評価に生かしたり、体育においてプレゼンテーションソフトで提示し、保健の授業の理解を深めたりした。

指導方法の工夫改善のため、11月には、各校の情報教育主任を中心として、各校におけるICT機器を活用した実践事例を紹介あるいは実演などの実践的なICT活用研修会を行い、情報を共有した。

また、各校におけるICT機器の積極的な活用と、教員の指導力の向上のために、調査を実施し、現状を把握するようにした。

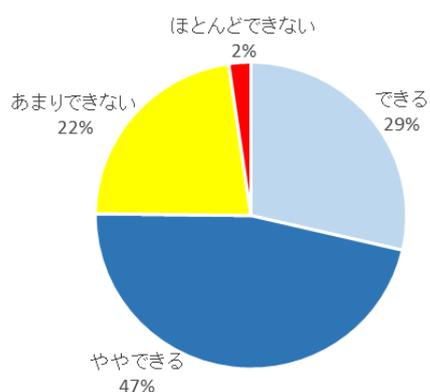
(2) ICT支援員の活用（毎月実施報告 各校月1～2回程授業サポート実施）

ICT支援員がサポートをしながら、プログラミングソフトを使い、絵が動くようにプログラミングすることや、調べたことをまとめたプレゼンテーションソフトで資料をプロジェクターで投影して発表するなどの授業を行った。また、プログラミングソフトの扱い方など資料作成を依頼し、市内で共有できるようにした。

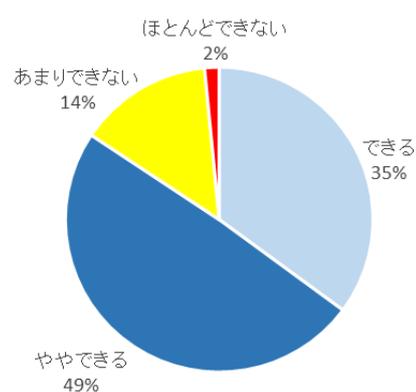
3 上記2に対する評価

(1) 令和元年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」結果（令和2年3月実施 桶川市の教員総数262名）より、教員自身が端末や大型提示装置を使って授業を行うことや情報モラルに対する指導は概ねできることがわかる。

児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。

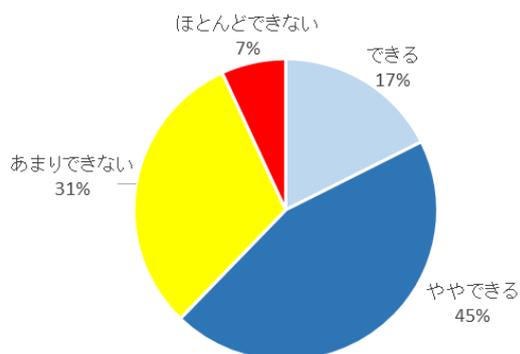


児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。

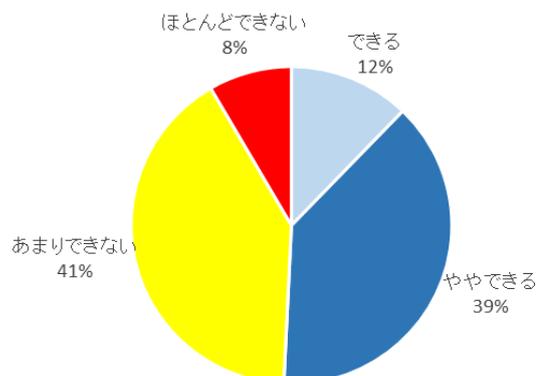


一方で、児童生徒同士による意見の共有や比較などの際に、端末や大型提示装置を使ったり、児童生徒へ活用の仕方について指導したりすることについては、指導力の向上が課題となっている。

児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。



児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。



(2) ICT支援員を活用することにより、プログラミング教育に苦手意識のある教員も、取り組むことができ、プログラミング教育に取り組む教員が増えた。

4 今後の取組方針

(1) 既存のICT機器を含めた積極的な活用を推進するとともに、各学校の校内通信ネットワーク環境整備及び、端末や大型提示装置等のICT機器の計画的な整備を目指す。その上で、実際に一人一台端末が整備された際に効果的な活用が図られるようにしていくため、教育委員会が各校の研修を中心に担う教員に研修を実施する。

まずは、どのような端末が入り、活用することで授業がどう変わっていくのかを示し、端末整備後、授業での活用の仕方を研修する。その際、各校の中心を担う教員を中心に研修ができるよう、研修資料の提供や、研修の際の人的支援等を行う。

(2) ICT支援員を効果的に活用し、蓄積・共有することで、全教員がICT機器を活用した授業の実践ができるようにしていく。

5 令和2年度の目標(値)

(1) 校内通信ネットワーク環境及び一人一台端末を整備し、学校におけるICT機器の積極的な活用を図る。そのため、桶川市学校教育情報化推進委員会を設置し、計画的かつ組織的に推進できるようにしていく。

(2) 情報教育主任向けの研修を10月と2月の2回程度実施し、教員の指導力の向上を図る。まずは、導入予定のパソコンの活用について実践的な研修を行い、次の研修では、各校での研修のやり方について資料をもとに説明を行っていく。

学校における教育の情報化の実態等に関する調査のうち「児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する」の項目において、「できる」「ややできる」と回答する教員を9割にしていく。

(3) ICT支援員による授業支援の割合を増やす。

(4) 新型コロナウイルス感染拡大により、臨時休業が今後も懸念されることから、学校からの授業動画の配信や、双方向でのオンライン授業の実現に向けて、環境の整備、研修の実施を計画的に行っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	226,063,000円	決算額	218,375,418円

1 事業概要

- (1) 桶川市学校給食運営事業
学校給食の実施計画、給食用物資選定及び献立作成等については、桶川市学校給食運営委員会で検討した。
- (2) 学校給食調理業務
各小・中学校の学校給食は自校方式で行っている。調理業務については、(公財)桶川市施設管理公社に委託した。
- (3) 学校給食の放射線量測定
学校給食用食材の放射線量の測定を、市内小中学校全校において実施した。
- (4) 学校給食用残牛乳の処分委託
各小・中学校の残牛乳を適切に処分するための業務を委託した。
- (5) 食育の推進
栄養教諭等を中心とした食育指導の充実を図る取組を行った。
- (6) 給食室の環境整備
給食室に必要な消耗品の購入及び給食室備品の修繕を行った。

2 事業実績

- (1) 桶川市学校給食運営事業
 - ア 学校給食費と年間実施回数
小学校：月 4,000 円（1食 234 円） 実施回数 年間 175 回
中学校：月 4,550 円（1食 272 円） 実施回数 年間 170 回
 - イ 献立作成
桶川市学校給食運営委員会専門部会において、栄養教諭・学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月 3 回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。
 - ウ 桶川市学校給食運営委員会
専門部会（物資選定部会・献立作成部会・食育推進部会）についての報告を行い、日々の学校給食運営に関することの協議ができた。
- (2) 学校給食調理業務
 - ア 学校給食調理業務委託（200,121,717 円）
給食物資の調達・発注、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄、給食室内の衛生管理等について、(公財)桶川市施設管理公社に委託した。
 - イ 調理作業備品等の更新（3,860,884 円）
消毒保管機（1 校）、炊飯器（1 校）、冷凍庫（1 校）、一槽シンク（1 校）、ガス回転釜（1 校）、移動シンク（1 校）、配膳台（1 校）、その他給食関連備品
 - ウ 細菌検査・給食室に係る委託（3,460,776 円）
検査委託、設備保守、殺虫駆除消毒殺鼠防除、設備洗浄、グリストラップ清掃
- (3) 学校給食の放射線量測定（659,010 円）
 - ア 学校給食用食材の測定
消費者庁の放射線測定機器第 4 次配備計画による測定機器の貸与があり、4 月から翌年 2 月まで 3 品目を週 2 回 1 校ずつローテーションで放射線量の測定を実施した。
- (4) 学校給食用残牛乳の処分 学校給食用牛乳処分委託（1,885,240 円）

(5) 食育の推進

- ア 桶川西小・桶川小・桶川東小・朝日小の4校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として食育の推進事業を行った。
- イ 加納中において、食育指導力向上授業研究協議会を開催し、栄養教諭等が学級担任と連携した食育に関する授業研究会を実施した。

(6) 学校給食用消耗品の購入及び学校給食用備品の修繕料他 (8,387,791円)

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市学校給食運営委員会の事業について

ア 献立作成

地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力をし、地元産食材の割合は小中平均で24.9% (令和元年11月現在)であった。

イ 学校給食運営委員会

年3回の学校給食運営委員会を開催することができた。食物アレルギーへの対応について、有識者よりご意見をいただき、共通理解を図ることができた。

(2) 学校給食調理業務について

ア 安全な給食の提供

安全を一番に配慮しながら、給食を提供できた。

イ 学校給食調理業務委託

(ア) (公財)桶川市施設管理公社との調整を経て、安心・安全な食材を用いて、安定した給食供給を行うことができた。

(イ) 支払業務など事務処理についても、学校事務員及び(公財)桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

ウ 調理作業機器等の更新

老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。

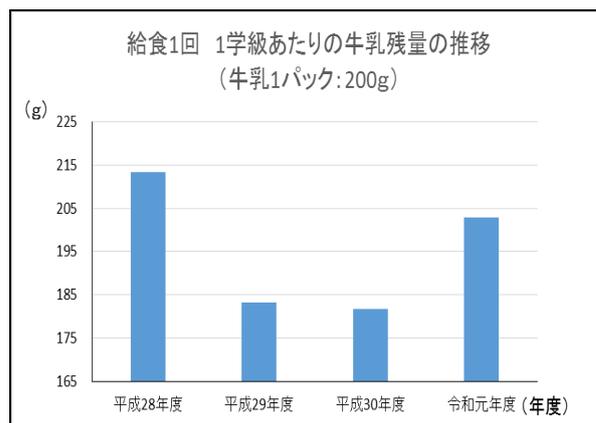
(3) 学校給食の放射線量の測定

計画どおり適切に測定し、測定値をホームページで公表することによって、保護者に対して、安心・安全な学校給食の実施を伝えるできた。

(4) 学校給食用残牛乳の処分

学校給食用牛乳の各学校全体の処分量は、前年度と比較して、115kg増加した。これは、1人あたり約21g増加している。

このことを踏まえ、牛乳残量が少ない学校の取組を広め、他の学校も減らしていく呼びかけを引き続き行う。



(5) 食育の推進

食育の指導については、地元産食材への理解を深める活動、郷土食をはじめとするふるさとへの理解を深める活動、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員との食に関する指導の推進をティーム・ティーチングによる授業で学校の年間指導計画に位置づけ、小学校平均約33時間、中学校平均約5.25時間の授業を行うことができた。

4 今後の取組方針

(1) 学校給食運営委員会で、学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。

(2) 献立検討部会で安心・安全な食材の確保及び地産地消の促進を図る。

(3) 学校給食費未納者対応については、各学校の状況を適宜把握し、未納解消に努める。

(4) 栄養教諭等を活用して、食育の授業の充実と質の向上を目指す。

(5) 学校における異物混入、アレルギー対応等の各マニュアルについて、計画的に点検・見直しを行っていく。

(6) 学校給食費について、安心・安全でおいしい給食の維持を図るため、改定の必要性があるかの研究・検討を行う。

(7) 学校給食費の公会計について、自校給食方式を活かす公会計化を実施するため準備を行う。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) 地元産食材の割合を小・中学校平均で30%以上にする取組を行う。
- (2) 公会計制度事務の遂行にあたり、細かな事務の整理をするとともに、公会計後の学校給食費未納者の徴収に力を入れる。
- (3) 牛乳の飲み残しについて、残量を減らす取組を行う。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業に係る食材の有効活用を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	補助員配置事業		
予算額	50,288,000円	決算額	49,856,595円

1 事業概要

児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。

2 事業実績

各校採用人数（人）

	学校名	教育指導	特別支援	日本語指導	小1プロブレム	理科支援員
1	桶川小学校	2	4		1	1
2	加納小学校	2	2		1	1
3	川田谷小学校	2	2		1	1
4	桶川西小学校	2	4		1	1
5	桶川東小学校	2	3		1	1
6	日出谷小学校	2	3	1	1	1
7	朝日小学校	2	2		1	1
8	桶川中学校	2	1			
9	桶川東中学校	2	1	1		
10	桶川西中学校	2	1	2		
11	加納中学校	2	1			
	合計	22	24	4	7	7

(1) 教育指導補助員配置事業（21,331,200円）

通常の学級に在籍する児童生徒について学習指導補助等を行った。小学校では、おもに国語、算数、体育等の教科を中心に学力向上に向けた学習指導補助等を行った。中学校では英語、理科、美術、技術の学習指導補助、また学習支援室での学習指導補助を行った。

配置状況：年間175日（原則として週5日、1日5.5時間）

(2) 特別支援指導補助員配置事業（23,780,955円）

特別に配慮を要する児童生徒について、技能教科等での補助的支援や個別の声かけ、日常生活への適応について支援を行った。特別支援学級や通級指導教室の設置の状況により、補助員の配置を調整した。

配置状況：年間180日（原則として週5日、1日5.5時間）

(3) 日本語指導員配置事業（812,040円）

日本語の指導を要する児童生徒が在籍する小学校1校、中学校2校に、4人の補助員を配置した。日本語指導員は、通常の学級に在籍する外国籍の児童生徒に対する支援として、日本語指導及び教育指導の補助にあたった。

配置状況：（原則として週2日、1日4時間）

(4) 小学校理科支援員配置事業（902,400円）

小学校理科の授業における学習指導補助（実験・観察の準備や片付け、学習の支援等）を行うため、小学校理科支援員を各小学校に1人配置した。

配置状況6月～12月

桶川東小学校：60日

加納小学校・川田谷小学校・桶川西小学校・桶川小学校・

日出谷小学校・朝日小学校：30日

(5) 小1プロブレム対策推進事業（3,030,000円）

小学校低学年において学習指導補助や生活支援及び学級支援を行った。

配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5.5時間）

- (6) 補助員及び支援員の資質向上研修会
令和元年10月11日「特別な配慮を要する児童生徒の支援のあり方について」
指導者 桶川市立桶川西小学校 白井 直子 教諭

3 上記2に対する評価

(1) 教育指導補助員配置事業

- ア 勤務日数は185日から175日となったが、担任や教科担当と連携しながら一人一人の理解の程度に応じたきめ細かい指導を行うことができた。
イ 学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成につながった。
ウ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることにつなげることができた。
エ 個別の支援を必要とする児童生徒の多様化と増加に対応するため、補助員の増員と質の確保が課題であるが、予算は縮小している。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

- ア 勤務日数は185日から180日となったが、特別な教育的支援を要する児童生徒にきめ細かで適切な支援を行うことができた。
イ より多くの支援を必要とする児童生徒がいるため、状況に応じて丁寧な支援を行うためにも、補助員の増員と人員の確保が課題である、予算は縮小している。

(3) 日本語指導員配置事業

- ア 学校生活への適応を支援することで、安心して学校生活を送ることにつなげることができた。
イ 日本語指導員が授業中の学習支援や個別の学習指導を行うことで、支援・指導を受けた外国人児童生徒は、ひらがなやかたかなを習得することができ、日本語による学習に慣れる一助となった。

(4) 小学校理科支援員配置事業

- ア 理科支援員が、授業における観察・実験の支援・後片付けを行うことで、理科教育の充実を図ることができた。また、指導主事による巡回指導時において児童への具体的な接し方や器具の準備や片付け方法やそのタイミング等について指導し、授業が充実するような支援をすることができるようになった。

(5) 小1プロブレム対策推進事業

- ア 学級担任と連携し、一人一人の理解の程度や状況に応じた細やかな対応を行い、児童が学校生活に適応するための支援を効果的に行うことができた。
イ 基本的な学力（読み 書き 計算）の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。
ウ 教育的ニーズに応じた個別の支援を必要とする児童もおり、丁寧に対応するためにより多くの支援員を配置すること及び人員の確保が課題である。

- (6) 補助員及び支援員の研修会を実施し、具体的な指導方法等について学び、補助員及び支援員の資質向上を図ることができた。

4 今後の取組方針

- ・教育指導補助員・特別支援指導補助員・小1プロブレム対策推進事業学級支援員を、名称を教育指導補助員とし、学校の児童生徒の実態に応じた配置を行う。
- ・日本語指導員配置事業では、日本語指導が必要な児童生徒の状況を把握し、必要なタイミングで必要な指導が行えるよう、指導員を配置していく。
- ・小学校理科支援員配置事業では、理科教育の充実を図るため、本事業の効果の検証を行い、継続・拡充を図る。

5 令和2年度の目標(値)

- ・勤務日数と勤務時間の減に伴い、補助員等の資質向上と教育に関する情報提供のための研修会を充実させる。
- ・休校に伴う学力保障のため、夏季休業中など、教育指導補助員の有効な活用を図っていく。
- ・広報での募集方法や採用面接の改善を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	学校図書館教育補助員配置事業		
予 算 額	6,204,000 円	決 算 額	6,199,300 円

1 事業概要

学校図書館教育の充実、読書教育の充実を図るため、小・中学校に学校図書館教育補助員を配置した。

2 事業実績

市内全小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。

配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5時間勤務）

(1) 児童生徒への読書指導

ア 国語や総合的な学習の時間等における学習の補助を行った。

イ 各学校の図書委員会などで、児童生徒が自ら本の紹介を行うなどの活動を行った。

(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助

(3) 学校図書館の環境整備

ア 学校図書館教育主任や図書ボランティアと連携して、児童生徒が興味関心をもつように、図書の紹介文をPOPで行ったり、貸し出し回数が多い図書を見やすい場所に置いたりするなど、学校図書館の環境整備に取り組んだ。

イ 市立図書館の図書の団体貸出を利用し、校内の教育活動に活用した。

ウ 学校図書館教育補助員対象の研修会を実施した。

実施日：令和元年6月18日(火)内容：各校の情報共有

令和2年2月19日(水)内容：各校の情報交換

3 上記2に対する評価

(1) 児童生徒への読書指導

ア 平成30年度の桶川市全体の貸し出し数は70,185冊であったが、令和元年は73,235冊と前年度比104%となった。

イ 図書を活用した学習活動が活発となり、各教科の調べ学習や探究的学習が円滑に行われた。

ウ 朝の読書活動の取組などにより、児童生徒に読書習慣の定着が図られた。

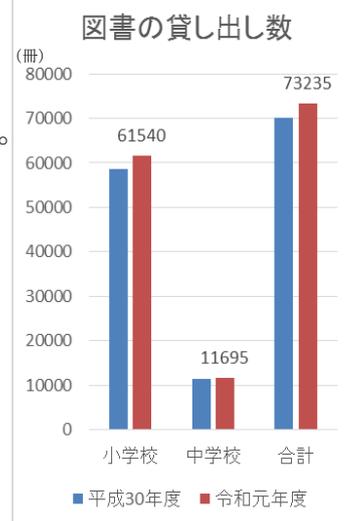
(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助

ア 蔵書の修復や整理等を計画的に行い、学校図書館の環境づくりの中心となった。

イ 学校図書館教育主任と連携し、図書の貸し出しを円滑に行うことができた。

(3) 学校図書館の環境の整備

ア 蔵書の数を充実させながら、様々な蔵書に興味をもつような学校図書館の工夫により、児童生徒が行きたくなる学校図書館を実現することができた。



4 今後の取組方針

(1) 学校図書館教育補助員を活用し、各学校の読書教育の一層の充実を図る。この事業で桶川市の児童生徒が一人でも多く本好きになるようにする。

5 令和2年度の目標(値)

(1) 各学校の学校図書館教育の情報交換を行い、よりよい学校図書館の機能の向上を図り、貸し出し数を全校合計80,000冊にする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業		
予算額	23,800,000円	決算額	21,036,912円

1 事業概要

小学校に4人、中学校に2人の英語指導助手（ALT）を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。

2 事業実績

(1) 配置状況

A指導助手：桶川西小学校	111日	日出谷小学校	79日
B指導助手：朝日小学校	110日	加納小学校	79日
C指導助手：桶川東小学校	157日	川田谷小学校	40日
D指導助手：川田谷小学校	67日	桶川小学校	124日
E指導助手：桶川中学校	109日	加納中学校	82日
F指導助手：桶川西中学校	98日	桶川東中学校	74日

(2) 活動状況

- ア 外国語活動や外国語、総合的な学習の時間等での指導補助の他、給食、清掃等の時間を通して児童生徒と交流し、外国語や外国の文化に触れる機会を設定した。
- イ 各小学校において、夏季休業中に外国語活動の指導についての研修を行った。
- ウ 中学校では、英語暗唱・弁論大会の指導等を行った。
- エ 公民館との共同企画で11月14日県民の日に25名の市内の小学生を集め、ALT6名と英語だけで一日を過ごすEnglish Dayを実施した。

3 上記2に対する評価

- (1) 児童生徒の発達段階に応じた活動を取り入れることにより、英語に関する興味関心やコミュニケーションの意欲を高めることができた。また、授業時間だけでなく休み時間や給食、清掃時間など様々な場面で児童生徒とALTが交流することにより、外国語や外国の文化に触れる機会を増やすことができた。

ア 全国学力・学習状況調査（中学校 3年生 英語）の結果より

	桶川市平均正答率	埼玉県平均正答率	全国平均正答率
「聞くこと」領域	70.2%(2.3%)	68.9% (1.0%)	67.9%
「話すこと」領域	32.9%~40.9% (2.1%~10.1%)		30.8%

* 「話すこと」については、平成31年度に初めて行われているため、参考値で学校ごとのみ正答率が算出されています。

* () 内は全国との比較

イ 埼玉県学力・学習状況調査（中学校2年生・3年生）

	桶川市平均正答率	埼玉県平均正答率
「聞くこと」領域 2年生	65.0%	62.1%
「聞くこと」領域 3年生	66.2%	61.7%

音声分野で、全国や埼玉県と比較して高い結果が報告されており、ALTの配置によるコミュニケーション活動の多い授業展開の成果といえる。

- (2) 各小学校で行った夏季休業中の外国語活動研修会には、147名が参加し、授業に生かせるヒントを提供できた。事後評価は、5段階で4.66と高い評価を得た。
- (3) 桶川・伊奈地区中学校英語暗唱・弁論大会においては、桶川市の生徒がスピーチ部門1位となり県大会に出場したほか、大会入賞者の87.5%が本市から選ばれた。原稿作成・選定・発音・パフォーマンス等におけるALTの指導の結果である。質の高い指導が行えたと考える。
- (4) English Dayについては、4年生~6年生までの参会者25名から、3段階の満足度調査で、2.96と高い評価を得た。

4 今後の取組方針

- (1) 外国語活動・外国語の授業を一層効果的に推進するため、授業等の状況を把握し、派遣委託業者と連携して、英語教育に係る指導助手の資質向上に努めるため、ALTミーティングを本年度も年6回行い、研修及びカウンセリングを行い、安定した指導につなげる。
- (2) 小学校では、学習指導要領の全面実施に合わせた対応を行う。
 - ア ALTの効果的な活用と指導と評価の一体化の観点から、ALTによるパフォーマンス評価について英語活動研究委員会で資料提供、協議を行う。
 - イ 外国語専科教員を1名配置しALTとのティームティーチングの質的改善を図り、検証する。

5 令和2年度の目標(値)

- (1) 埼玉県学力・学習状況調査の「聞くこと」の領域で、全学年が、県の正答率を3.0%以上、上回るようにする。
- (2) 質の高い英語教育の推進を目指し、年4回の外国語活動研究委員会を開催する。その中で、ALTの活用の改善を図るとともに、担任や教科担当教員の指導力の向上と新学習指導要領が全面実施となった小学校外国語および外国語活動の評価について研修する。
- (3) 派遣委託業者選定方法・契約期間や配置について研究・精査し、小学校5名、中学校2名の185日以上安定した派遣を促進する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教育相談事業		
予算額	13,969,000円	決算額	12,889,175円

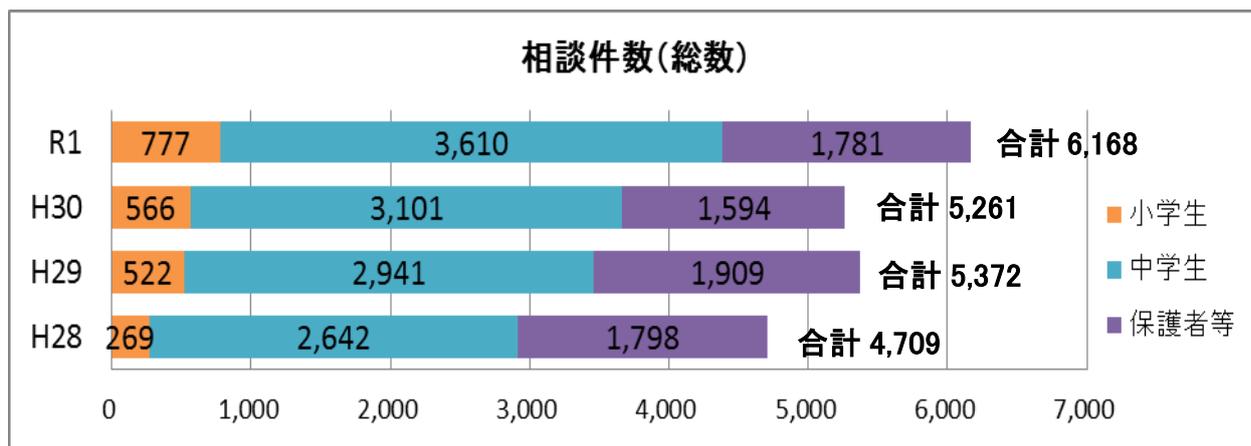
1 事業概要

- (1) さわやか相談員を各中学校に、スマイル相談員を小学校2校に配置した。
- (2) 桶川市教育センターにカウンセラーを2名、相談員を3名配置し、教育相談を行った。また、指導員4名を配置し、適応指導教室「けやき教室」を運営した。
- (3) スクールカウンセラーを1校に隔週で1日、3校には毎週1日、中学校に配置し、小学校に月1日配置した。
- (4) スクールソーシャルワーカーを要請に応じて学校へ派遣した。

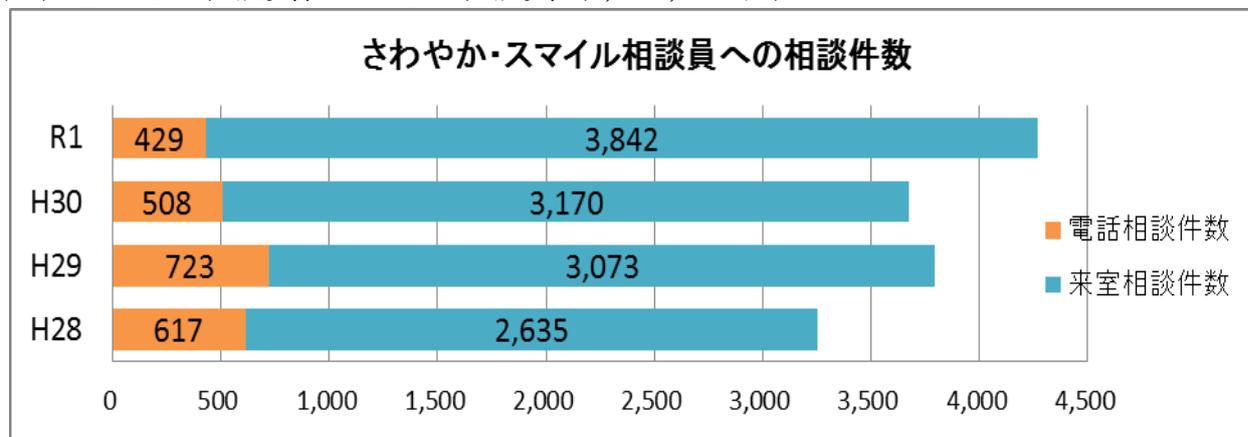
2 事業実績

●桶川市小・中学校 相談件数（総数）

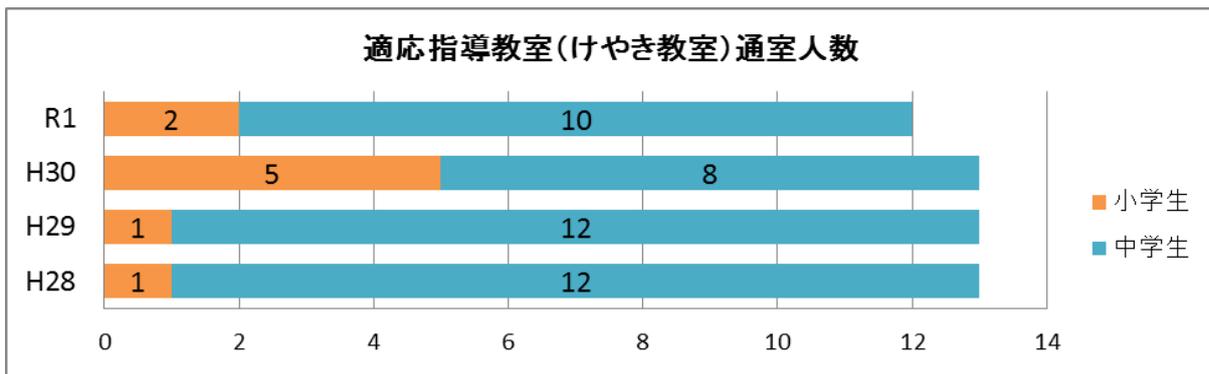
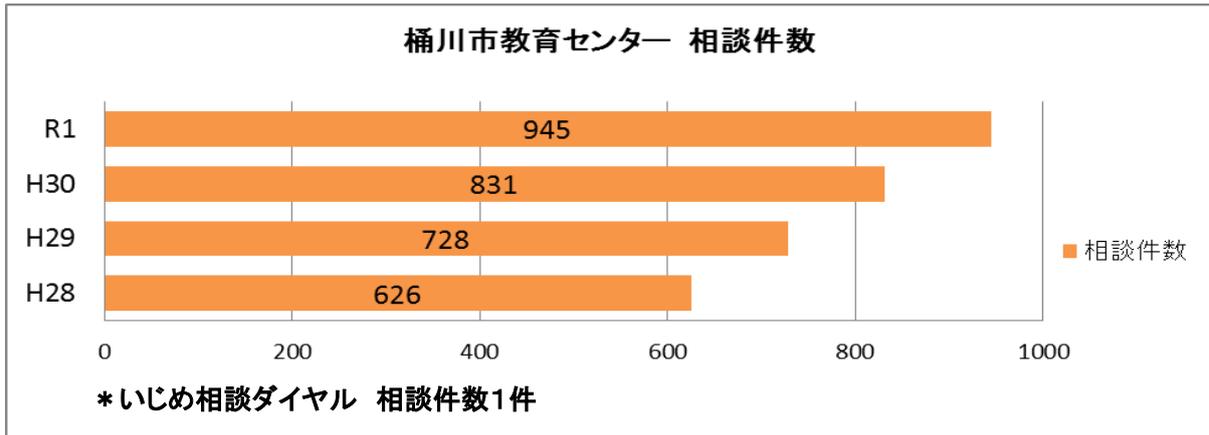
さわやか相談室、スマイル相談員、桶川市教育センター、スクールカウンセラーへの相談件数をすべて合計したもの。



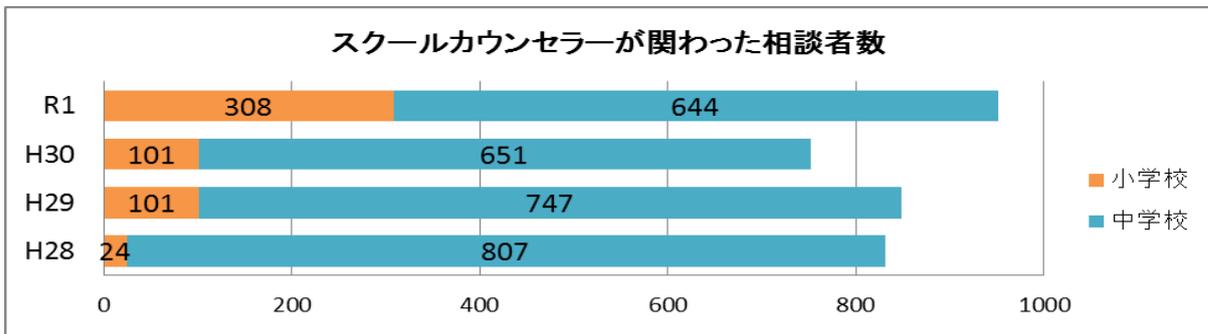
(1) さわやか相談員、スマイル相談員（7,613,695円）



(2) 桶川市教育センター（適応指導教室「けやき教室」を含む）（5,275,480円）



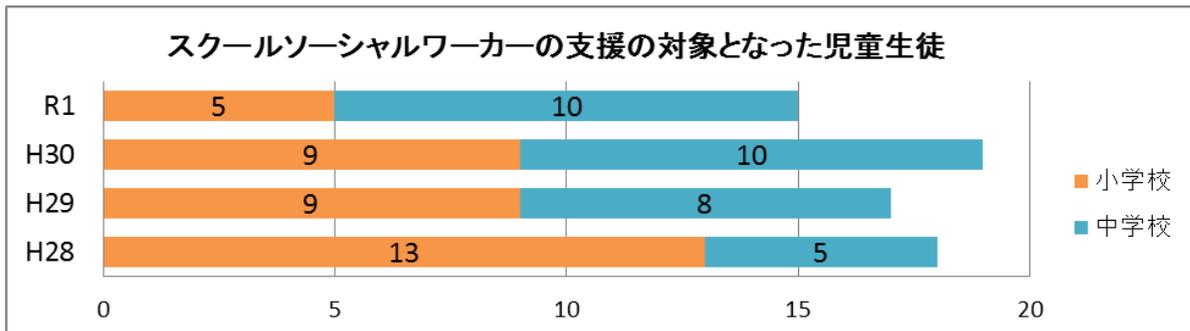
(3) スクールカウンセラーが関わった相談者数（述べ人数）



〔関連事項. 市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校児童生徒数〕

いじめの認知件数	R1	小学校	233件	中学校	40件
	H30		129件		21件
不登校児童生徒数	R1	小学校	32人	中学校	72人
	H30		27人		69人

(4) スクールソーシャルワーカーの支援の対象となった児童生徒数



3 上記2に対する評価

相談業務に対して、相談員やカウンセラーなどを適切に配置することで、児童生徒、保護者への対応を行うことができた。不登校の児童生徒も増え、相談が今後も増えることから、対応できる体制の構築と、人材の育成が課題と考える。

(1) さわやか相談員・スマイル相談員

ア さわやか相談員は各中学校にすでに配置していたが、昨年度より新たに小学校2校にスマイル相談員を配置した。これにより、よりきめ細やかな対応ができるようになったため、令和元年度において、特に相談件数が伸びていると思われる。また、児童生徒及び保護者の相談を受け、スクールカウンセラー、学級担任や養護教諭等と連携を迅速に図ることができた。

(2) 桶川市教育センター（適応指導教室を含む）

ア 平成30年度から令和元年度にかけては、主に学習や家庭環境についての相談件数が増えていた。また、相談件数の中では、児童生徒の不登校に関する保護者からの相談が多いが、カウンセラー及び相談員が面談や電話相談による、きめ細やかな対応をすることができた。カウンセラーと相談員、指導員とのケース会議を設け、共通理解を図った。課題として、相談業務の増加に伴う対応体制の構築があげられる。

イ 不登校児童生徒に対して、指導員が学校への復帰のための支援を適切に行えた。

(3) スクールカウンセラー

ア 昨年度より、市内全ての小学校に、月に1回スクールカウンセラーが配置されたため、令和元年度においては、小学校における相談件数が増加したと考えられる。相談員や、教育相談担当の教員と情報共有を図りながら、特別な教育的配慮を要する児童生徒に対して専門的な検査等を実施し、指導・支援の在り方を保護者及び教員に助言し、課題の解決に向けて取り組むことができた。

(4) スクールソーシャルワーカー

支援の対象となった児童生徒数に大幅な変化はなかったが、課題をかかえる児童生徒及び保護者の状況をふまえつつ、学校からの訪問要請を適宜実施し、学校と関係機関をつなぐ等しながら支援を行うことができた。

4 今後の取組方針

(1) 相談件数の増加、多様な相談・支援ケースへの対応のため、教育センターのスタッフや、さわやか相談員の勤務日数を増やし、スマイル相談員の増員を図り、ニーズが生じた際に対応できる体制づくりを進める。

(2) それぞれの相談機関が連携を図れるように、各校の教育相談主任と相談員、教育センター相談員と指導員による情報共有及び研修会を実施していく。

5 令和2年度の目標（値）

(1) 新型コロナウイルス感染症対策に係る臨時休業が長引いたことにより、学校生活に不安を抱える児童生徒が増加している。そのため、今年度、小学校相談員を新たに5名配置、教育センター相談員を1名増員し、心のケアに対応できるようにしている。

(2) 小学校相談員による研修を年2回実施し、お互いの取組について情報共有を図っていく。また、学校とそれぞれの相談機関が、連携を図り、児童生徒がよりよく生活できるよう、教育委員会として連絡・調整を図っていく。各担当による児童生徒・保護者一人一人の状況に応じた適切かつスムーズな相談対応が行えるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業		
予算額	234,000円	決算額	234,000円

1 事業概要

生徒が将来をよりよく生きるために、望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるなど、進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。

2 事業実績**(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催**

ア 実施日 第1回：令和元年5月24日（金）

第2回：令和2年2月27日（木）

イ 委員 桶川市商工会、桶川青年会議所、桶川ロータリークラブの代表者
桶川市PTA連合会長、代表校長、各校事業担当者

ウ 内容 職場体験活動の目的の確認、依頼する事業所の確認、各校の情報交換

(2) 各校における実績

ア 体験期間：3日間、参加生徒数：583人

イ 協力事業所数：122事業所

学校名	実施学年	人数(人)	事業所数	交付金(円)
桶川中	第2学年	161	49	65,000
桶川東中	第2学年	151	49	52,000
桶川西中	第2学年	147	45	65,000
加納中	第2学年	124	39	52,000

3 上記2に対する評価**(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催**

ア 市内中学校4校で情報交換を行うことで、よりよい事業の運営ができた。

イ 桶川市商工会、桶川市青年会議所、桶川ロータリークラブ、PTA連合会長の参加により事業所への依頼を円滑に行うことができた。

(2) 各校の取組

ア 事業所に赴き、実際に働くことや働く方々と接することにより、普段学べないことを掴むことができた。また、その後の学習もより深いものになった。

イ 事前学習において、青年会議所からの紹介（桶川西中）や企業経験のある教員（桶川東中）に講師をお願いし、ビジネスマナー講座を行い、課題に対応することができた。

ウ 3日間の職場体験を軸に、事前学習、事後学習を含め、充実したキャリア教育を行うことができた。

エ 桶川中学校の生徒アンケートと受入事業所のアンケート結果より

(5段階評価の平均)

	生徒	事業所
①適切な挨拶言葉遣いができた	4.7	4.2
②いつも返事ができた	4.7	4.1
③積極的に仕事に取り組んだ	4.5	3.9

生徒は、3日間の取組のなかで大変充実した体験ができたという感想が多いが、自己評価より事業所の評価が低い。

4 今後の取組方針

- (1) 年2回の事業推進委員会において、桶川市商工会、桶川市青年会議所等との連携を深め、市内及び近隣市の事業所に対して本事業への理解の促進をお願いし、新規受入れ事業所を確保し、推進委員会（事務局は市教育委員会）への登録制として、登録のある事業所へ各校から依頼する方法へ変更予定である。
- (2) ビジネスマナー講座については、全校に広げていく予定である。

5 令和2年度の目標(値)

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防の観点から、本年度の事業所での体験学習については、全校で中止とし、進路指導・キャリア教育の指導計画の再考を実施し、探究的な活動を行う。
- (2) ビジネスマナー・接遇研修を全校で実施できるように斡旋する。
- (3) 事業所登録制度を構築し、令和3年度より活用できるようにする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）		
予算額	40,000円	決算額	40,000円
1 事業概要			
進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。			
2 事業実績			
各中学校の実施内容			
学校名	講師	参加数	実施日
桶川中	車いすバスケット選手 堀江 航 氏	482人	6月27日
桶川東中	車いすバスケット選手 堀江 航 氏	456人	10月31日
桶川西中	JTBコミュニケーションデザイン 小池 岳太 氏	457人	7月1日
加納中	弁護士 佐藤 有紗 氏	408人	10月31日
内容（講演・演題）			
「自分らしく生きる」 体験談と実技体験			
「自分の可能性を信じて」			
身近な法律講座と キャリア教育講座			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 様々な職業人から直接話を聞くことで、「生きること」「働くこと」について改めて考える機会を持つことができ、自分自身の進路を見つめるきっかけとすることができた。講師それぞれの仕事の内容のみならず、夢を実現するために努力することの大切さ、仕事に対する信念、仕事に向き合う真摯さなどを生徒が感じ取っていたことが、感想等から伺えた。生徒の進路意識の啓発・高揚を図ることができた。</p> <p>(2) 全ての中学校が毎年、全校生徒を対象に本事業を実施し、様々な分野で活躍する方々に接することで、自己の進路意識の向上につながっている。</p> <p>(3) 生徒の主な感想より 「心に残っているのは『今を生きる』こと。過去は変えられず、未来は分からないということ」「自分で考えて決めることの大切さがわかった。言い訳をしない生き方をしたい」「失ったものを数えるな。残ったものを最大限生かせ！を大事にしたい。」</p>			
4 今後の取組方針			
<p>(1) 本市独自の取組として継続していく。各校の講師の選定が円滑に行われ、より効果的な事業実施ができるようにする。</p> <p>(2) 今後も当課だけでなく、生涯学習文化財課・スポーツ振興課、県教育委員会講師派遣制度やJICA等の団体とも連携し、支援していく。</p>			
5 令和2年度の目標(値)			
<p>(1) 進路指導・キャリア教育の充実のために、幅広い職業人からの講話の機会は、重要だと考える。今年度、新型コロナウイルス感染予防を踏まえ、講演会実施について、規模やリモートの活用など実施方法や実施時期を、状況をみて学校と検討する。</p> <p>(2) 市長部局の連携事業や教育委員会他課、県の出前「起業家講座」、JICAを通じた講師派遣を積極的に取り入れ、多面的・多角的な中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図るため、4校全校での実施を目標とする。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,590,000 円	決算額	1,590,000 円

1 事業概要

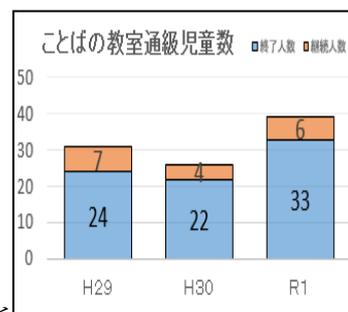
ことばの発達に不安のある児童生徒や保護者に対して、専門的な指導を行った。

2 事業実績

開設日数 75日 開設時間 午後1時～5時
 通級児童生徒数 小学生39人 中学生0人 うち終了6人

(1) 児童生徒への言語指導

- ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。
- イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。



- ウ 保護者の希望により、児童生徒の言語指導への理解を共有したり、保護者からの相談に対応したりした。

(2) 保護者の相談対応 8件（平成30年度12件）

通級前に保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた。
 （相談後に「ことばの教室への通級」と「相談のみで終了」とに分かれる。）

(3) 言語指導に係る学校との連携

対象となる児童生徒の在籍校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡協議会を夏季休業中に実施し、指導の充実が図られるよう連携を強化した。必要に応じて適宜、担任等へ連絡し、連携を充実させた。

3 上記2に対する評価

- (1) 言語聴覚士による専門的な指導により、言葉の発音(構音、吃音、発達遅滞)等において困難を抱えている児童生徒に適切な指導や支援を行うことができた。随時入級が出来、指導をすぐに開始できる体制をとれることも、指導の効果を上げている。保護者と児童生徒の現状や通級での指導を共有することで「ことばの教室」での指導を充実させることができた。
- (2) 保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた際、専門的な立場から助言をすることができた。学校や担任から伝えることが難しいケースも専門家として、教育センターや医療機関等を勧めることができた。
- (3) 夏季休業中に、初任者研修施設体験研修を実施し、初任者教員の「ことばの指導」への認識を深めることができた。特別支援教育コーディネーター等在籍校の教員との連絡協議会を実施し、在籍校においてことばの指導の方法や児童の支援について、より充実した共通理解を図ることができた。

4 今後の取組方針

保護者や児童生徒等からの相談・指導に応えるために、継続して設置していく。
 今後も初任者研修では「ことばの指導」への認識を深めるため施設体験研修を実施する。
 ※新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度の初任者研修(施設体験研修)は、机上研修後、レポートの提出に変更。

5 令和2年度の目標(値)

新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業の影響で、申込人数が増加している。
 6月現在 相談人数 8人 (内5人・通級開始)
 通級児童生徒数 継続30人 新規5人 合計35人
 今後も、児童生徒と保護者に丁寧に寄り添い、相談、指導を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業		
予算額	60,000円	決算額	57,422円

1 事業概要

通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童に対し、必要な教育支援を行った。

2 事業実績

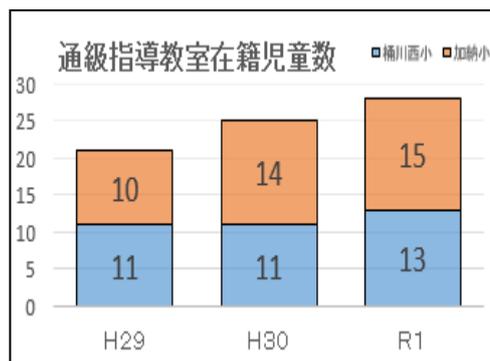
教室通級状況（通級児童数）

令和元年度 28人

（桶川西小教室13人、加納小教室15人）

(1) 桶川市発達障害・情緒障害通級指導教室

「大空」を、桶川西小学校及び加納小学校内に開室し、学校生活や社会生活への適応に支援が必要とされる児童を対象として、担当教員による児童の状況に応じた個別指導及び少人数によるグループ学習を行った。



(2) 保護者と在籍校教員（学級担任等）と通級教室担当教員が参加する連絡会を4月と3月に実施し、指導・支援の連携を図ることができた。

(3) 在籍校訪問を学期ごとに実施した。通級児童の行動観察及び授業参観後に在籍校担任との情報交換を行うことで、通級児童の支援及び指導の共通理解を図ることができた。

3 上記2に対する評価

(1) 個別指導及び少人数指導を行うことで、通常の学級の授業に参加する力や通常の学級に適応する力を向上させることができた。グループ学習は、一人一人の状況に応じて取り組み、回数や日数は異なるが、継続して実施することで他の人との関わり合いの中で学習しコミュニケーション能力の向上へとつなげることができた。

(2) 保護者と在籍校教員（学級担任等）と通級教室担当教員が、連絡会をスタートに通級児童への指導・支援において連携が図られたことで、児童の成長に効果が見られた。保護者からは、新学期当初の様子や児童が前向きに通級できるように、担任と理解を深めるための話し合いをすることができ好評であった。

(3) 児童一人一人の状況に応じて、コミュニケーション能力の向上や、学習への苦手意識の改善等の課題解決につなげることができた。

4 今後の取組方針

(1) 児童生徒数が減少していく中、特別な配慮を必要とする児童生徒の数は増加傾向を示している。「ニーズに対応できる体制づくり」として考え、課題を抱える児童生徒に寄り添った通級指導教室の運営ができるよう推進していく。

(2) 桶川中学校、桶川東中学校、加納中学校に中学校通級指導教室「大空」が令和2年度から開設された。新規開設に当たり、体制の整備と、特別な配慮を必要とする児童生徒の指導・支援を進める。

5 令和2年度の目標（値）

(1) 桶川中学校、桶川東中学校、加納中学校の中学校通級指導教室「大空」と小学校通級指導教室の連携を図り、桶川市として効果的な体制の構築を目指す。

(2) 今年度の人数

桶川西小教室20人、加納小教室13人

桶川中教室8人、桶川東中教室3人、加納中教室 2人

桶川西中教室は指導人数が多いため、毎週の指導、2週間に1回の指導というように、児童生徒の状況によって回数日を調整する。

(3) 今後、通級指導教室への通級希望児童生徒の増加が見込まれるため、通級指導教室担当教員と通級児童生徒の在籍校教員の連携について継続的に検討していく。

(4) 通級指導教室の継続的な運用のためにも、指導者について、後継者を育成していく。

※新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業のため、通級指導教室の開始日は、小学校は7月1日(水)、中学校は、6月29日(月)とした。

保護者と在籍校教員(学級担任等)と通級教室担当教員との連絡会は中止。

個人面談は、5月下旬～6月に実施。

※新型コロナウイルスの感染症対策として、今年度は、グループ学習の実施回数を減らす予定である。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		
予算額	900,000円	決算額	812,000円

1 事業概要

学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。

2 事業実績

市内全小・中学校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。令和元年度の人数は平成30年とほぼ同数の885人であった。

(1) 学校支援活動の内容

ア 小学校7校（ボランティア数：726人）

(ア) 安心安全への支援：登下校の安全確保、防犯パトロール、運動会見守り

(イ) 学習活動への支援：読書タイムにおける本の読み聞かせ、夏休み学習教室、ミシンボランティア

(ウ) 環境整備への支援：ペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

イ 中学校4校（ボランティア数：159人）

(ア) 教育活動への支援：読み聞かせ等

(イ) 環境整備への支援：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

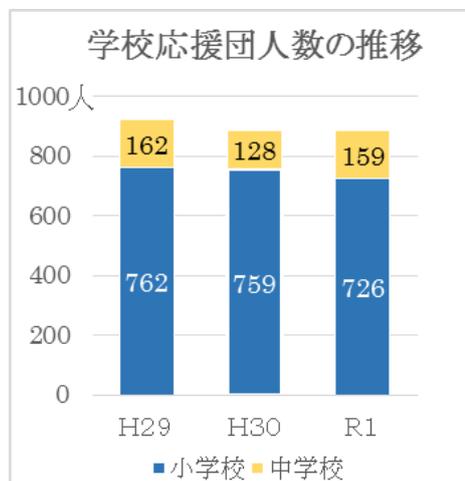
(2) 学校応援団事務局の活動

ア 学校応援団実行委員会

令和元年11月21日（木）

内容「活動内容の充実に向けて」

イ 活動報告書の作成



3 上記2に対する評価

(1) 学校支援活動の内容

ア 安心安全の支援では、登下校時の安全確保ができ、事故防止ができた。また、不審者の対応など、地域の防犯ができた。

イ 学習活動の支援では、児童生徒に寄り添ったきめ細かな指導ができた。

ウ 環境整備の支援では、日々の整備活動や台風後の倒木の整備など、教職員だけでは対応できないところまで迅速に活動していた。

※ これらの活動を通して、児童生徒からの感謝の気持ちも強くなり、また、地域の連帯感や児童生徒と地域とのつながりがうまれた。

4 今後の取組方針

(1) 令和2年度は小学校3校、中学校2校が学校運営協議会（コミュニティ・スクール）となることにより、さらに学校応援団の組織を強固なものにする。

(2) 各学校の活動が、学校応援団コーディネーターを中心に行われるように研修を推進する。

5 令和2年度の目標（値）

(1) 市内全校がコミュニティ・スクールとなる令和3年度に向け、学校応援団の役割を明確にし、学校との連絡体制を確立する。

(2) 学校応援団実行委員会での意見交換や実績報告をより充実させる。

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある今年度は、感染防止に留意して活動を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	2,241,000 円	決算額	2,223,000 円

1 事業概要

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

2 事業実績

(1) 市教育委員会主催研修会 (20,000 円)

項 目	実施時期	内 容	参加対象者
桶川市教育講演会	5月9日	「子どもたちの命を守るために～ASUKAモデルへの思い～」元さいたま市教育長 桐淵博氏、遺族 桐田寿子氏	全教職員 (329名)
初任者研修	5.6.7.2月	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員 (10名)
体力向上推進研修会	7月5日 12月6日	体力づくり活動やその指導方法等の内容の充実・改善	体育主任等 (13名)
保健指導研修会	7月12日 12月17日 3月10日	心身の健やかな発達を促進するための指導の在り方	養護教諭等 (14名)
道徳教育研修会	7月31日	自校の道徳の指導力の向上に向けて	道徳主任・道徳推進教師 (13名)
給食指導法研修会	7月31日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等 (14名)
生徒指導・教育相談中級研修会	8月1-3日	生徒指導・教育相談推進者として必要な知識・技能の習得	参加教員 (4名)
人権教育担当者研修会	8月2日	人権意識の高揚（人権教育に係る教材作成）	人権教育主任 (13名)
小学校英語活動研修	8月(各校)	英語活動の充実に係る指導方法	小学校全教員 (200名)
ICT機器活用研修会	11月27日	各校のICT機器を活用とプログラミング指導方法	情報教育担当教諭等(13名)
管理職等人権教育研修会	2月7日	「武州鼻緒騒動～差別に立ち向かった人々～」の現地における研修 東松山市 正法寺 住職	各校管理職等 (13名)

(2) 学校訪問 (8,000 円 講師謝礼)

ア 教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問

南部教育事務所の協力を得て、各学校を各1回訪問し、教育課程、学習指導、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。

イ 各学校の自主研修に伴う依頼訪問

各学校の自主研修に伴い、指導主事が10回訪問し教科指導を行ったり、外部から講師を依頼したりして、自主研修に対する指導・助言を行った。

(3) 学校課題研究 (2,195,000 円) 研究1年目 130,000 円 2年目 215,000 円 3年目 300,000 円

小・中学校全校に交付金を交付し、それぞれの学校の研究を支援した。

交付金額：研究1年目 130,000 円 2年目 215,000 円 3年目 (本発表) 300,000 円

また、本発表校には、研究発表会の開催に至るまで支援及び全体会での指導講評を行った。

学校名	研究領域	研修主題等	備考
桶川小学校	国語科	自分の考えを持ち 生き生きと交流する 児童の育成 ～「伝えたい」を高める授業づくり～	研究1年目
加納小学校	体育科	運動する楽しさやできる喜びを味わい、生き生きと活動する児童の育成	研究2年目
川田谷小学校	学習指導	主体的に学習に取り組む児童の育成 ～国語・算数の学習活動の工夫を通して～	研究1年目
桶川西小学校	学習指導	「考える力」を身に付けた子どもの育成	研究2年目
桶川東小学校	国語科	全員の児童が楽しく学び合い、「わかる・できる」授業づくりをめざす～論理的に文を読み取ることができるけやきっ子の育成～	研究1年目
日出谷小学校	算数科	自己の考えをもち、主体的に学ぶ児童の育成 ～数学的な見方・考え方を深める授業づくりを通して～	令和2年1月31日
朝日小学校	体育科・ 体力向上	体を動かすことを楽しみ、心身を磨き合う朝日っ子 ～基礎・基本を明確にした体育授業の工夫・改善～	令和元年11月22日
桶川中学校	学習指導	「深い学び」への導く授業の在り方を目指して	研究1年目
桶川東中学校	学習指導	「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指導の 質的改善 ～主体的・対話的で深い学びを通して～	研究1年目
桶川西中学校	道徳	豊かな心を育む道徳教育の充実 ～「考え、議論する」道徳の実践を中心として～	研究2年目
加納中学校	学習指導	主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の研究	令和元年10月30日

3 上記2に対する評価

(1) 市教育委員会主催研修会

各学校の教職員が、各研修会を通して、今後の教育に求められる専門的知識や児童生徒の指導に生かす指導方法について研修を実施することができた。また、ICT機器活用研修会を新設することができた。

(2) 学校訪問

南部教育事務所からの支援を受け、学校訪問の際、各校の課題や実態を踏まえて教育活動の改善を図るため、指導・助言を行うことができた。教科等指導員の委嘱や退職校長、他市町教育委員会、総合教育センター指導主事等を招致し、専門的な教科等の指導ができた。また、中学校区内で、公開授業等への参加者を募り、研修の機会を増やすことができた。

(3) 学校課題研究

各学校が自校の課題を解決するために、研究に取り組み、その成果を発信し、桶川市全体の教育活動の充実を図ることができた。本発表であった朝日小学校では、日本体育大学児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科 教授 今関豊一氏による「深い学びにつながる学習過程をつくるには」を演題に、日出谷小学校では埼玉大学教育学部附属小学校 教諭 神谷直典氏による「新学習指導要領への準備」を演題にご講演いただき、研究の成果に対する評価と今後の教育活動への示唆をいただき、有意義な発表となった。

4 今後の取組方針

- (1) 本市教職員の指導力向上に向けた研修を実施する。
- (2) 学校訪問での指導主事等によるきめ細かな指導・助言を行い、学力向上を図る。並びにいじめ・不登校等の状況把握及び助言の時間の充実を図る。
- (3) 各学校の課題解決のために、研究の進捗状況に合わせて、計画的に指導・助言を行い、研究の成果が上がるよう支援する。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) G I G Aスクール構想の実現や小学校での外国語の教科化に伴う今日的な課題に対する研修を充実させる。
- (2) 学校訪問の充実
 - ア 南部事務所との合同訪問については、訪問形式・指導の観点を代えて、1学期は延期、2学期以降については実施する。分科会は、ワークショップ型とし、参会については、市内全域から募集する。学力向上、いじめ・不登校等について指導を行う。
 - イ コロナ禍の感染予防対策上の諸問題等に対応する学校訪問を並行して行い、非常時の学習指導に対し、指導・助言する。
 - ウ 学校教育指導員による定期的学校巡回と指導を定着させる。
- (3) 学校課題研究は、本年度も実施することとし、本発表の方法について、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を見て、判断する。また、初年度からの継続的な指導を、市教育委員会指導主事が行い、各校の研究の充実を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	学校教育における人権教育の推進事業		
予算額	184,657円	決算額	171,600円
1 事業概要			
学校の教育活動全体を通じて、主体的に人権課題を解決しようとする児童生徒を育成するため、教職員の研修を実施し、各学校の人権教育推進体制の充実を図った。			
2 事業実績			
(1) 各学校における人権教育推進体制の充実			
(2) 人権作文・人権メッセージの募集と文集「かがやき」の発行（171,600円）			
(3) 教職員の研修			
ア 桶川市人権教育担当者研修会 令和元年8月2日（金） 桶川市役所会議室401にてDVD「人間は尊重すべきものだ」を視聴した。その後、「人権感覚育成プログラム」を実施し、参加者が教師役、児童生徒役となり体験をした。参加者11人（各校人権教育担当等教諭11人）			
イ 桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会 令和2年2月7日（金） 東松山市正法寺（岩殿観音）の現地研修を実施し、人権教育施設及び人権教育推進地域を視察した。参加者11人（各校校長、教頭、主幹教諭、教務主任） 講師：岩殿山正法寺住職 中嶋 栄 氏			
3 上記2に対する評価			
(1) 各学校における人権教育推進体制の充実 各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置付けることができた。また、「人権感覚育成プログラム」を年間計画に位置付け、実践した。さらに、拉致問題を扱った授業を桶川東中学校で実施し、拉致問題に対する理解を深めることができた。また、いじめ問題、児童虐待について対応する組織を充実させ、学校教育での推進体制の充実を図ることができた。			
(2) 人権作文・人権メッセージの募集と文集「かがやき」の発行 各学校で人権作文及び人権メッセージに取り組み、児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。人権作文は4762件、人権メッセージでは4562件もの応募があった。人権作文の文集「かがやき」を発行し、全児童・生徒に配付し、活用を促し、人権に対する意識を高めることができた。			
(3) 教職員の研修 各学校において、校内研修で各種人権課題を取り上げ、研修を実施した。また、合計22名が参加する市教委主催の研修会を実施し、人権教育担当者対象研修では、「人権感覚育成プログラム」、管理職対象研修では、現地研修を実施し、人権教育に関する理解を深めることができた。いずれの研修でも、同和問題を扱い、部落差別解消法について周知を図った。			
4 今後の取組方針			
(1) 引き続き各種人権課題について、教職員研修を通して理解を深める。			
(2) 「人権感覚育成プログラム」を活用し、児童生徒の指導に活用できる事例等について研修を深め、人権教育を推進する。			
5 令和2年度の目標（値）			
(1) 昨年度に引き続き人権作文集「かがやき」を発行し、児童生徒の人権意識の高揚			

を図っていく。

(2) 人権教育担当者研修会及び管理職等人権教育研修会の現地研修会を実施し、人権教育に関する理解を深めていく。管理職等人権教育研修会は、昨年度参加していない管理職の方に参加していただく予定である。

※ 例年、夏季休業中に実施していた人権教育担当者研修会は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業の影響で夏季休業が短縮されたため、9月14日に実施する予定である。

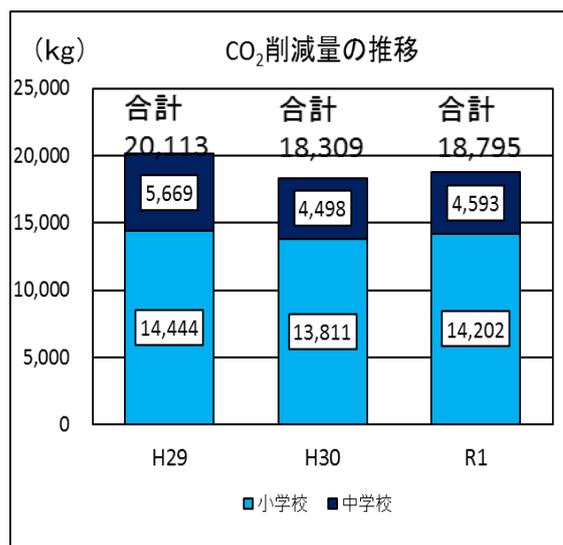
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円

1 事業概要

児童生徒が環境問題に気づき、環境を守ろうとする意識や態度を育成するための環境教育を推進した。

2 事業実績

- (1) 各学校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を適切に作成し、指導の充実を図った。
- (2) 環境教育の授業をより充実させていくため、教育委員会がコーディネーターとなって地域の人材である埼玉県環境教育アシスタントと学校をつなげ、桶川西中学校にて授業を実施した。生徒は、身近な川やひまわり畑の様子などから、より環境問題についての意識を高めることができた。
- (3) グリーンカーテンの実施や県の事業「エコライフDAY」に取り組み、家庭と共同して二酸化炭素削減の意識を高めた。



3 上記2に対する評価

- (1) 環境教育の全体計画・年間指導計画の作成がされており、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間と相互の関連を図る中で、児童生徒は身近な環境について問題意識をもって取り組むことができた。
- (2) 新たな取組として、埼玉県環境教育アシスタントを活用した環境教育の授業を行った。地域の人材を活用したことで、環境に対する生徒の意識がより高まった。
- (3) 学校ごとの取組が多く、各学校の実践について、その内容や方法、成果等を共有する必要がある。また各学校の取組の工夫改善が必要であり、児童生徒の実態、地域の実態を考慮して、年間指導計画等の見直しや修正を図っていく必要がある。

4 今後の取組方針

各学校が実施している総合的な学習における環境に関する取組や、理科の授業におけるよりよい実践をより充実できるよう、外部人材の活用も含め、教育委員会と連携を図ることで、環境教育の充実を図り、ごみ減量化への意識を高めていく。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) 桶川市教育研究会理科部会などを活用し、各学校における取組内容の情報交換を行う。
- (2) コンビニエンスストアなどでのごみ袋の有料化など社会におけるごみ減量化への意識も高まっていることから、ごみ減量に向けた意識の啓発を行っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要			
発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図る。			
2 事業実績			
<p>(1) 各学校において、教科及び道德・特別活動・総合的な学習の時間等を活用し、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定するよう助言した。</p> <p>(2) 中学校社会体験チャレンジ事業においては、ディサービスねむのき4名、ルーエハイム5名、やすらぎの里3名、訪問介護ステーションみやび3名、計15名が職場体験のなかで、介護について体験活動を行った。</p> <p>(3) 認知症サポーター講座を市内全小学校4年生が行った。(616人) 認知症とはどういうものか、認知症の人と接する時の心がまえ、認知症介護をしている人の気持ちを理解するなど、これらの講座を聞き、児童の認知症に対する理解を深めた。</p> <p>(4) 令和元年10月20日、地域活動センターで行われた桶川市社会福祉協議会主催のボランティア見本市に、今年度は市内4中学校すべてが参加し、各中学校の活動を紹介するブースを設けた。他の参加団体の取組にも参加して、ボランティアについて学ぶよい機会となった。</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 中学校社会体験チャレンジ事業においては、生徒が介護の体験を通して、この仕事の大切さ、大変さを学んだ。また、介護福祉士だけでなく、入所されている方々とのふれあいから多くのことを学んだ。</p> <p>(2) 各学校における車いすやアイマスクの体験活動、赤い羽根等の募金活動やベルマーク収集活動、認知症サポーター講座などの体験を通して、児童生徒が発達段階に応じて、社会福祉への関心と理解を深めることができた。</p>			
4 今後の取組方針			
(1) 社会福祉協議会を活用し、発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験がさらに充実するよう、全体計画・年間計画の見直しを行い、より充実させていく。			
5 令和2年度の目標（値）			
<p>(1) 発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験が充実するように、中学校でも全校で認知症サポーター講座が実施できるよう啓発していく。</p> <p>(2) 令和2年度は、中学校チャレンジ事業での社会福祉施設の体験活動、ふれあいフェスタは中止となったが、児童生徒の社会福祉への関心と理解を深めていけるよう働きかける。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業		
予算額	3,210,000円	決算額	3,129,604円

1 事業概要

児童生徒に本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与える学校図書館の図書購入を行った。

2 事業実績

小・中学校全体で3,210,000円の予算を学校に配当し、小学校で2,250,000円、中学校で960,000円の図書を購入した。

＜過去3年間の充足率の推移＞

	標準達成率（%）		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
小学校全体	103.50%	101.50%	98.90%
中学校全体	104.30%	104.20%	103.50%

$$(C) = (B) / (A)$$

＜令和元年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学校名	標準冊数(A)	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数(B)	標準達成率(C)
全学校	118,360	2,434	4,560	119,296	100.8%
小学校全体	69,720	1,688	3,677	68,931	98.9%
中学校全体	48,640	746	883	50,365	103.5%
桶川小	11,160	192	214	12,380	110.9%
桶川西小	11,360	253	350	11,266	99.2%
加納小	8,760	211	300	7,961	90.9%
川田谷小	7,960	184	200	8,198	103.0%
桶川東小	11,760	376	125	11,117	94.5%
日出谷小	9,560	262	1,479	8,240	86.2%
朝日小	9,160	210	1,009	9,769	106.6%
桶川中	13,120	169	200	14,222	108.4%
桶川東中	12,160	175	264	11,715	96.3%
桶川西中	12,640	181	300	14,557	115.2%
加納中	10,720	221	119	9,871	92.1%

3 上記2に対する評価

各小・中学校とも※「学校図書館図書標準」の達成を目標として取り組んだ結果、予算の97.5%の執行となった。標準達成率は中学校（4校平均）が100%を超えることができたが、小学校は98.9%にとどまった。※公立義務教育諸学校の学級数に応じて学校図書館に整備すべき蔵書の標準として平成5年3月に文科省が定めた数値。

4 今後の取組方針

図書標準達成率は全校の平均値では100%に達しているものの、各小・中学校で100%に達していない学校もある。児童生徒が読みたくなるような図書の購入と古くなった図書の修理や廃棄をしながら、引き続き全校学校図書館の標準達成率100%を目指す。

5 令和2年度の目標（値）

100%に達していない市内小学校4校、中学校2校において、学校図書館の標準達成率を100%に近づける。100%に達している学校については、増加冊数について、児童生徒のニーズにしっかり対応できるよう、質の向上を図り、学校図書館利用者の増加を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	就学援助事業		
予算額	（学務課）41,958,000円 （学校支援課）180,000円	決算額	（学務課）39,171,834円 （学校支援課）0円

1 事業概要 [学務課・学校支援課]

- （1）児童生徒の義務教育に対する機会均等を図るため、経済的に困難である保護者に対し、就学費用の援助を行った。特別支援教育の普及・奨励と入級児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給した。
- （2）要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健安全法で定められた疾病の医療費の援助を行う。

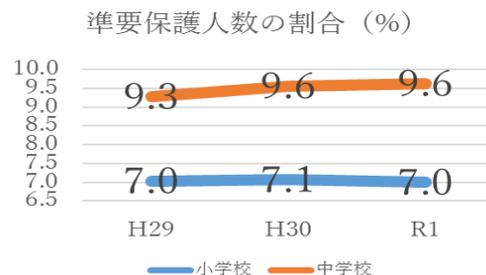
2 事業実績（ ）は平成30年度実績

（1）令和元年度就学援助費等執行状況 [学務課]

	要保護	準要保護	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	新入学学用品費 (入学前)	特別支援教育 就学援助費
小学校	2人 (3人)	254人 (260人)	6,158,859円 (5,912,747円)	9,328,925円 (10,378,901円)	18人(14人) 1,050,800円	32人(31人) 1,948,361円
中学校	4人 (2人)	177人 (176人)	8,625,341円 (7,657,848円)	7,564,588円 (8,111,368円)	46人(48人) 3,120,400円	15人(19人) 1,374,560円

（2）令和元年度医療費補助執行状況 [学校支援課]

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小学校	0人(1人)	0件(1件)	0人(1人)	0件(2件)	0円
中学校	0人(0人)	0件(0件)	0人(0人)	0件(0件)	0円



3 上記2に対する評価 [学務課・学校支援課]

- （1）子の就学にあたり、経済的な支援が必要な保護者に対し援助を行うとともに、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を滞りなく実施し、申請者に寄り添った援助を行うことができた。市内全児童生徒の家庭への案内配付と併せ、広報紙、市HP等に掲載し、申請促進を図ることができた。
- （2）医療費の支給はなかったが、学校・医療機関などと連携を密にし適正に事務処理を行うことができた。

4 今後の取組方針 [学務課・学校支援課]

- ・社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行っていく。なお、令和3年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した家庭等からの申請が見込まれるため、適切に対応していく。
- ・個人番号(マイナンバー)を利用した情報連携を行うことで、市外からの転入者の利便性を図る。
- ・学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。

5 令和2年度の目標(値)

援助の必要な保護者がより申請しやすくなるように、年2回の案内配付や広報誌の掲載（2月、10月）、市HP掲載の他、窓口案内表示を行うことで、制度の周知を図るとともに、適正で迅速な事務処理を継続する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校評議員会の設置事業		
予算額	282,000円	決算額	281,400円

1 事業概要

学校、家庭、地域が連携協力しながら一体となって児童生徒の健やかな成長を担っていくことを目的として、教育委員会が各小・中学校の学校評議員を委嘱し、地域に開かれた学校づくりのより一層の推進を図った。

2 事業実績

学校評議員とは、児童生徒の健やかな成長のため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、校長の行う学校運営や学校の教育活動に関し意見を述べ、又は助言を行う者である。

各学校では、定期的に学校評議員会を開催し、学校運営等について貴重な意見や助言を受け、学校運営に活用している。

委員数：5名（9校）、計45名

（謝金 6,700円×42名＝281,400円）※市の職員3名を除く

開催回数：1回（1校）、2回（5校）、3回（3校）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月に予定していた会を中止し、資料送付に代えた学校が4校あった。

主な内容：〈説明・見学〉「学校概要説明」「学校評議員制度の説明」「学校運営協議会について」「授業・行事参観」「施設設備見学」等

〈意見交換〉「教育活動…小中連携、参観の感想、ICTの活用等」

「児童生徒の状況…地域での様子（あいさつの状況）等」

平成30年度	学校評議員会・学校関係者評価委員会の設置 小学校7校・中学校4校
令和元年度	小学校5校・中学校4校 学校運営協議会へ移行： 加納小・川田谷小
令和2年度	小学校4校・中学校2校 学校運営協議会へ移行： 桶川東小・桶川西中・加納中

「学力・学習状況調査の結果…分析、成果と課題等」

「安全について…登下校、食物アレルギー、情報メールの活用等」

「いじめ・不登校対策について、学習環境・言語環境」

3 上記2に対する評価

- （1）通学時や放課後、休日などの地域や児童生徒の様子を伺い、学校と家庭や地域で指導の一貫性をもたせることができた。
- （2）学校評議員の幅広い視点から情報や意見、助言をいただくことで各学校の教育活動の充実・改善・推進に役立てることができた。
- （3）授業参観や学校公開に併せて実施することで、学校の教育活動の様子を参観していただくとともに、保護者にも評議員について知ってもらう機会としている。

4 今後の取組方針

- （1）学校運営協議会設置に向けた学校・保護者・地域への啓発を進め、令和3年度までに市内全小・中学校でコミュニティ・スクールをスタートする。
- （2）学校運営協議会への移行に向けて、学校評議員会において課題意識の共有を図る等のあり方を工夫する。

5 令和2年度の目標(値)

学校運営協議会についての理解を図り、設置に向けた準備を進めるとともに、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校関係者評価委員会の設置事業		
予 算 額	68,000 円	決 算 額	60,000 円
1 事業概要	教育委員会が学校関係者評価委員会委員を委嘱し、学校が行う自己評価の客観性及び透明性を高め、教育活動その他学校運営の改善を図った。		
2 事業実績	<p>学校関係者評価委員会は、学校が行う自己評価結果の妥当性を評価することを通じて、学校の自己評価の客観性・透明性を高めるために組織されている。また、学校・家庭・地域が学校運営の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携を促し、学校運営を評価し、工夫・改善を促進する役目も担っている。</p> <p>委員数：8名（6校）、7名（3校）計69名 （謝金 4,000 円×15 名=60,000 円）</p> <p>※謝金対象者は学校評議員を兼務、接続している学校の職員を除く</p> <p>活動回数：1回（1校）、2回（7校）、3回（1校）</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催予定だった委員会を資料送付に代えた学校が4校あった。</p> <p>主な内容：学校の教育活動視察等、学校関係者評価に必要な情報・資料の収集 学校の自己評価結果についての評価及び意見交換</p>		
3 上記2に対する評価	<p>(1) 「教材費のキャッシュレス化、業務のICT化を進め、保護者に理解を促し長時間勤務の改善につなげてほしい」、「組織的に学校評価の結果を踏まえて改善し、学力向上や不登校生徒解消に取り組んでいる。自己評価は妥当であり、もう少し高くてもよい」「HPの更新を頻繁に行い、学校での児童生徒の様子がわかる」などといった意見をいただくことで、教職員の自信ややりがいへとつながっている。また、指摘された課題について各校が継続的に取り組むことで、よりよい学校づくりに寄与している。</p> <p>(2) 市内全小・中学校において、いじめ防止に係る評価項目を入れ、評価を行った。</p> <p>(3) 客観性・透明性を高めた学校の自己評価を市内全小・中学校でHPに掲載し周知することができた。</p>		
4 今後の取組方針	<p>(1) 学校運営協議会設置に向けた学校・保護者・地域への啓発を推進し、令和3年度までに市内全小・中学校においてコミュニティ・スクールをスタートする。</p> <p>(2) 学校関係者評価委員会の評価を活かしたPDCAサイクルの構築を行い、次年度以降の学校経営に反映させる。</p>		
5 令和2年度の目標(値)	学校運営協議会についての理解を図り、設置に向けた準備を進めるとともに、学校関係者評価委員会を通して明確になった課題をもとに、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する。		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校運営協議会設立準備委員会の設置事業		
予算額	50,000円	決算額	40,000円
1 事業概要			
<p>保護者及び地域住民等（以下「地域住民等」という。）の学校運営への参画並びに地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校、地域住民等との信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むことを目的として、準備委員会を実施した。</p>			
2 事業実績			
<p>地域とともにある学校づくりを推進するために、令和2年度より市内中学校で初めて設置することになった桶川西中学校学校運営協議会のスタートに向けての準備を進めた。</p> <p>準備委員数：7名（謝金 2,000円×5回×4名=40,000円） ※各回1名ずつ準備委員が欠席のため4名分 ※市の職員・校長を除く</p> <p>開催回数：5回 主な内容：熟議・地域や学校の課題について ・育てたい生徒像について ・地域から学校への支援について ・学校から地域への支援について ・地域交流について（災害、行事等） 演習・学校の強み、弱みの分析（KJ法的分類）</p> <p>* 熟議…多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。「文部科学省HPより」 * KJ法…川喜田二郎氏が考案した、意見や考えの近いものをまとめて、情報を整理する方法。</p>			
<p>平成30年度準備委員会設置校：加納小、川田谷小 令和元年度新規設置校：加納小（小学校モデル校）、川田谷小（小学校モデル校） 令和元年度準備委員会設置校：桶川西中 令和2年度新規設置校：桶川東小、桶川西中（中学校モデル校）、加納中 令和3年度新規設置校：桶川西小、日出谷小、朝日小、桶川小、桶川中、桶川東中 【全校設置完了】</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 熟議を通して、地域や学校の課題や育てたい生徒像について思いや願いを共有することができた。</p> <p>(2) 演習を通して、学校の強み、弱みを視覚化でき、委員で課題の共有ができた。</p>			
4 今後の取組方針			
<p>(1) 学校運営協議会設立準備委員会の設置事業は令和元年度で終了したが、令和3年度までに、学校運営協議会を市内全小・中学校に設置するための準備として、教職員をはじめ、家庭、地域への周知・啓発を積極的に行う。</p> <p>(2) 今後、設立準備委員会を経ずに学校運営協議会を設置する学校のための見学兼研修会をモデル校において実施する。</p>			
5 令和2年度の目標(値)			
<p>市内の実践を広め、地域住民等及び教職員の学校運営協議会について理解を深め、市内全校への本格導入の推進を図る。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校運営協議会の設置事業		
予算額	108,000円	決算額	107,200円
1 事業概要			
<p>保護者及び地域住民等（以下「地域住民等」という。）の学校運営への参画並びに地域住民等による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校、地域住民等との信頼関係を深め、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組んだ。</p>			
2 事業実績			
<p>教育委員会が学校運営協議会委員を任命し、令和元年度より加納小学校・川田谷小学校に学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりを推進した。</p> <p>委員数：2校 各10名（謝金 6,700円×16名＝107,200円） ※学校職員（各校2名ずつ）を除く</p> <p>開催回数：5回</p> <p>主な内容：第1回 校長の提示する学校経営方針の承認 等 第2～4回 部会での活動状況の確認 児童の安全をテーマにした熟議（交通安全、SNS等） 学校を支援する組織同士の連携のあり方 学校の教育活動や児童の様子への参観 第5回 学校評価について 今年度の活動の振り返り及び次年度に向けて</p> <p>*熟議…多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。「文部科学省HPより」</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) PTA や学校評議員、民生委員等の諸会議を統合し、効率的に行うことができるようになった。</p> <p>(2) 学校運営協議会を設置したことで、年度当初に承認した学校経営方針に基づき熟議が行われ、PTA や地区防犯推進協議会、学校応援団等の組織の連携が図られた。</p> <p>(3) 様々な立場の委員が意見を交換することで、学校、保護者、地域が共通認識をもって、児童の育ちを支えていこうという機運が生まれた。</p>			
4 今後の取組方針			
<p>(1) 令和3年度からの市内全小・中学校における学校運営協議会の設置に向け、教職員をはじめ、家庭、地域への周知・啓発を積極的に行う。</p> <p>(2) 小・中学校が連携したコミュニティ・スクールの在り方について研究していく。</p> <p>(3) 学校運営協議会の活動について、広く市民に情報発信をしていく。</p>			
5 令和2年度の目標(値)			
<p>これまでの学校運営協議会設置校の実践を広めることで、学校運営協議会未設置校の教職員・保護者・地域への学校運営協議会の理解を深め、本格導入への準備を計画的に行う。</p>			
<p>平成30年度準備委員会設置校：加納小、川田谷小 令和元年度新規設置校：加納小（小学校モデル校）、川田谷小（小学校モデル校） 令和元年度準備委員会設置校：桶川西中 令和2年度新規設置校：桶川東小、桶川西中（中学校モデル校）、加納中 令和3年度新規設置校：桶川西小、日出谷小、朝日小、桶川小、桶川中、桶川東中 【全校設置完了】</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務事業		
予算額	1,615,000円	決算額	1,615,000円

1 事業概要

桶川市立小・中学校教職員の事故防止、及び市費対応に係る臨時的任用教職員の配置を行った。

2 事業実績

(1) 教職員事故件数 (件)

体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	1

(2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況

	欠員補充者	市費負担日数	市費負担費用(円)
小 学 校	5人	63日	535,500
中 学 校	9人	94日	799,000
合 計	14人	157日	1,334,500

(3) 病休等に係る臨時的任用教員の配置状況 *病休等者数は8日以上

	病休等者数 ()は平成30年度実績	市費負担	市費負担費用(円)
小 学 校	6人(4人)	6日(1人分)	51,000
中 学 校	6人(4人)	27日(4人分)	229,500
合 計	12人(8人)	33日(5人分)	280,500

3 上記2に対する評価

- (1) 教職員事故を受け、市内全小・中学校において、会計の取扱規程の整備・周知徹底のための研修を実施。個人の職員自身の貴重品も含め、取扱いについて厳正を期し、教職員事故の絶無に向け、指導と研修を充実させた。
- (2)・(3) 臨時的任用教職員を県費発令までの間、市費で補うことで児童生徒の指導に空白を作らないよう教職員を配置した。職員の春季休業中の勤務日数の調整を図り、予算内で病気等職員の代替についても配置することができた。課題として、配置日数を絞っての配置のため空白ができることもあった。また、年間を通して、教職員の確保も課題であった。

4 今後の取組方針

- (1) 学校教育指導員を活用し、事故防止に向けた研修の充実を図るとともに、「教職員の服務規律の徹底」「当事者意識の高揚」等、教職員事故の絶無に向けた指導・啓発に努める。
- (2) 退職教員の活用を図るとともに、広報おけがわや市HPなどで広く募集し、南部教育事務所や近隣市町教育委員会とも連携を図りながら人員を確保する。
- (3) 倫理確立委員会では、教職員からの課題提示によるボトムアップ研修を行い、風通しの良い職場づくりを推進する。また、業務改善・負担軽減に向けた取組を推進する。

5 令和2年度の目標(値)

- ・重点項目を情報・金銭の適正な管理と体罰等の禁止とし、教職員事故絶無に向けた啓発活動の推進を図る。(市教育委員会主催の管理職対象・臨時的任用教職員対象を年間1回以上実施する)
- ・年間2回桶川市の広報・HPに情報を掲載し、臨時的任用教職員を確保に努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	25,000円	決算額	25,000円
1 事業概要 教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会を行った。			
2 事業実績 (1) 教職員人事評価 (2) 研修会の開催 ア 人事評価に係る評価者研修会 （実施月：4月、紙面研修、対象者：市内全小・中学校長、 8月、演習を入れた研修会、参加者：市内全小・中学校長・教頭） イ 夏季学校経営・運営研究協議会（実施月：8月、参加者：市内全小・中学校長・教頭・主幹教諭） 講師：埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 安原 輝彦 教授 演題：学校における働き方改革と人材育成について考える（決算額25,000円） ウ 臨時的任用教職員研修会（実施月①7月、参加者55名 ②3月、参加者41名）			
3 上記2に対する評価 (1) 教職員人事評価の実施 評価者である校長・教頭が教職員に自己評価シートに基づき計画的に面談（当初・中間・最終）と授業観察を行った。「チーム学校」の意識を高めるために、校長の学校経営方針と個々の教職員の目標を連鎖させることで学校全体の教育力を向上させるよう指導し、「チーム学校」の意識や学校の教育力を高めることができた。 (2) 研修会の開催 ア 演習を取り入れた研修会では、実際の自己評価シートを用いて各学校の実情に即した研修を行うことができた。人事評価制度の運用を通じて人材育成を行うことができた。 イ 学校における働き方改革について研修し、児童生徒と向き合う時間を生み出すための業務改善について意識の向上を図ることができた。 ウ グループ協議を取り入れた演習を実施したところ、参加者による事後アンケートの満足度では、「十分満足（77%）」或いは「やや満足（23%）」と4段階評価の上位2つで100%の結果となり、実践的な研修の機会とすることができた。			
4 今後の取組方針 (1) 人事評価制度の効果的な運用のための情報提供と研修会の充実を図る。 (2) 学校管理職のニーズを捉えたテーマ設定と、主体的な学びを取り入れた実践的な研修の計画・実施する。			
5 令和2年度の目標(値) (1) 人事評価制度を適切に運用し、公正公平な教職員の評価に努めるとともに学校の教育力向上と人材育成を実現する。 (2) 人材の育成と学校の教育力の向上を目指し、各課題や満足度調査等をもとに内容を精査し企画、立案する。県内において、臨時的任用教職員の事故が散発していることから、学校教育指導員等を活用し、教職員事故根絶に向けた研修を2回実施する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTAリーダー研修会		
予算額	25,000円	決算額	0円
1 事業概要			
小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及び家庭教育のあり方等について研修を行った。			
2 事業実績			
開催日・会場：令和元年6月13日（木） 桶川東公民館 大会議室			
テーマ：「子どもの教育—その目的と親子のコミュニケーション—」			
講師：埼玉県家庭教育アドバイザー 上田 孝彦 氏			
※県からの講師派遣に係る報償費は県負担となるため無償			
参加者：42人			
		H29年度	H30年度
		48人	44人
			R元年度
			42人
3 上記2に対する評価			
(1) PTA活動の促進と役員の意欲づけについて			
当日は講演の中でグループワークを実施し、参加者同士で意見交換をしながら進める形をとった。参加者自身に考えさせる参加型の研修形式にしたことで参加者の課題意識が高まり、参加者からも「有意義だった」との声を多く聞くことができた。			
(2) 参加者へ向けた日程調整について			
市PTA連合会総会（5月第3土曜日）においても講演会を行っており、PTA役員の負担が大きいため、事業の実施方法を見直し、令和2年度より同時開催とすることとした。			
4 今後の取組方針			
(1) 本事業のねらいは「子供たちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めること」であることから、関係機関の情報等も活用し、今日的な親の悩みに応えられるような研修内容、講師の選定などを行う。			
(2) 参加者数については、ほぼ例年どおりであるが、今後も各学校への働きかけを促進し効果的な研修となるよう計画していく。			
また、講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定し、参加者の拡大を図る。			
5 令和2年度の目標（値）			
保護者のニーズに沿った啓発活動を推進する。			
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、研修会は中止とした。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTA家庭教育講演会		
予算額	373,000円	決算額	281,290円
1 事業概要			
小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と高等学校PTAとの共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。			
2 事業実績			
PTA家庭教育講演会『手をつなごうPTAべに花講演会』			
開催日・会場：令和2年1月18日（土） 桶川市民ホール			
講演会：「夢に向かって～希望の音色～」			
式町 水晶 氏 ・ 式町 啓子 氏			
内容：講演のほか、桶川高等学校合唱部、桶川西高等学校科学部による発表、桶川高等学校・加納中学校吹奏楽部による演奏、桶川西高等学校美術部による展示			
対象者：小・中学校PTA会員、桶川高等学校・桶川西高等学校PTA会員、一般市民			
参加者数：530人			
	H29年度	H30年度	R元年度
参加者数	640人	500人	530人
満足度	95%	99%	96%
歳出：講師料100,000円、使用料181,290円			
3 上記2に対する評価			
(1) 家庭教育力の向上と青少年の健全育成について			
より幅広い年齢層の子供たちを育てるという趣旨のもと、今年度も教育委員会、市PTA連合会、桶川高等学校・桶川西高等学校PTA・後援会との共催で事業を行った。このことにより、各PTA間の連携が図られ、大変有意義な事業となった。また、幅広い保護者の意識の向上と教養を深めることができた。			
(2) 講演会の内容について			
障がいを抱えながらも希望を持ちながら力強く歩んできた親子の話に感動された方が多かった。バイオリンの演奏を交えながらの講演に全体の96%が満足していた。			
4 今後の取組方針			
(1) 本事業は、家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的に開催されている。市内に、小・中・高等学校がある強みを生かし、合同で実施することによって家庭、地域の教育への関心を高められるよう実施する。			
(2) 保護者のニーズに沿った内容を検討する。広報活動（広報・保護者向け便り等）を効果的に行う。			
5 令和2年度の目標（値）			
アンケート結果をもとに講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定する。			
※今後新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、事業を中止する場合もある。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		
予算額	55,000円	決算額	5,000円

1 事業概要

より多くの保護者に子育てについて改めて考えてもらうとともに、親が親として成長する機会とするために、「親の学習」講座を行った。

2 事業実績

小学校では、埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明氏、県から派遣された埼玉県家庭教育アドバイザーの弓削多美信氏を指導者として、自立や集団生活に向けて、今日から家庭でできることをテーマに講座を行った。

中学校では、同じく弓削多美信氏を指導者として、思春期の特徴や思春期の子との付き合い方等をテーマに講座を行った。

（1）参加状況は下表のとおり。歳出：講師謝礼 5,000円

※ 県からの講師派遣に係る報償費は県負担となるため無償

小・中学校名	実施日	対象者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)
桶川西小	10月25日(金)	125	125	100.00
加納小	10月21日(月)	51	50	98.03
川田谷小	10月29日(火)	41	38	92.68
桶川東小	10月16日(水)	132	130	98.48
日出谷小	11月1日(金)	71	70	98.59
朝日小	11月12日(火)	70	70	100.00
桶川小	11月11日(月)	96	94	97.92
小計		586	577	98.46
桶川中	2月1日(土)	161	145	90.06
桶川東中	1月25日(土)	142	130	91.55
桶川西中	1月25日(土)	177	107	60.45
加納中	1月25日(土)	144	133	92.36
小計		624	515	82.53

3 上記2に対する評価

（1）小学校では、入学を控えた保護者の不安を軽減させるような、和やかな雰囲気の中で講座を行うことができた。多くの参加者が講師の話をうなずきながら共感的に聞いており、グループワークでは、参加者が和気あいあいと話す姿が見られた。

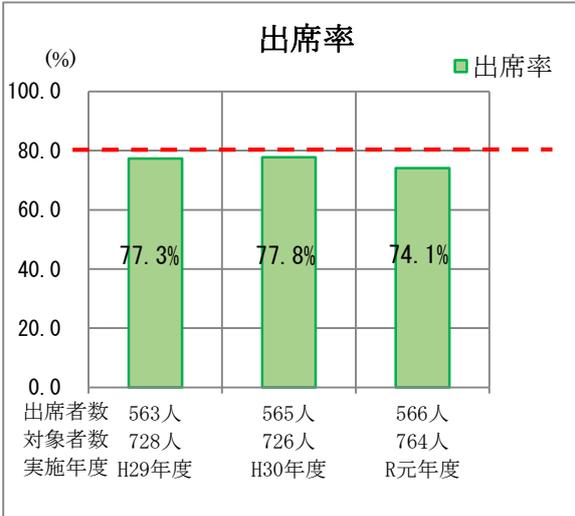
（2）中学校では、学校説明会の際に親の学習講座の時間を設定し、思春期にある子への接し方等について親としてどうすべきかという講座を行った。昨今の課題となっているネットとの付き合い方についても考える良い機会となった。

4 今後の取組方法

- ・実施時期について、小学校では就学時健診時、中学校では入学説明会前での講座開催という形が定着している。多くの保護者の参加を考えると、この時期の実施が効果的だと思われるため、令和2年度も実施していく。また、参加率の低い学校については講座の時間設定等を工夫し、参加者の増加を図る。
- ・テーマについては、今後も必要に応じて検討、見直しを図っていく。

5 令和2年度の目標（値）

アンケート結果を活用し、より満足度を高めるため保護者のニーズに沿った内容の講座を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる																		
施 策	青少年の健全な育成（203）																		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）																		
事業名	成人式典																		
予算額	439,000円	決算額	418,138円																
1 事業概要																			
「成人の日」を成人になったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出とともに祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式にて実施した。																			
2 事業実績																			
(1) 開催日・会場：令和2年1月13日（月）成人の日 桶川市民ホール テーマ：「0話～REImagine the Image of What you Are～」 開催内容：オープニングイベント、第1部 式典、第2部 アトラクション																			
 <table border="1"> <caption>出席率</caption> <thead> <tr> <th>実施年度</th> <th>出席者数</th> <th>対象者数</th> <th>出席率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29年度</td> <td>563人</td> <td>728人</td> <td>77.3%</td> </tr> <tr> <td>H30年度</td> <td>565人</td> <td>726人</td> <td>77.8%</td> </tr> <tr> <td>R元年度</td> <td>566人</td> <td>764人</td> <td>74.1%</td> </tr> </tbody> </table>		実施年度	出席者数	対象者数	出席率	H29年度	563人	728人	77.3%	H30年度	565人	726人	77.8%	R元年度	566人	764人	74.1%	<p>【実行委員会】 広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人14名で構成され、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営について主体的に行った。 新成人式研究会主催の第20回「成人式大賞2020」（文部科学省後援）では話題賞に選ばれ、平成21年から12年連続受賞となり、継続して高い評価を得られている。</p>	
実施年度	出席者数	対象者数	出席率																
H29年度	563人	728人	77.3%																
H30年度	565人	726人	77.8%																
R元年度	566人	764人	74.1%																
<p>歳出：消耗品等需用費 175,808円、施設使用料 242,330円</p>																			
(2) 民法改正に伴う成人式典の在り方について、2023年以降の成人式典の対象年齢を20歳とし、広報・ホームページで報告した。																			
3 上記2に対する評価																			
(1) 実行委員長主導で、積極的に意見を出し合い、円滑な成人式典を開催することができた。（推薦11名、公募3名） 当日は教育部職員の協力と、オープニングイベントを今回も実施したことで、落ち着いた式典を開催することができた。																			
(2) 2023年以降の成人式典について、市内中学3年生、市内2つの高等学校1年生、2年生及びそれぞれの保護者にアンケートを実施し、対象年齢を決定することができた。																			
4 今後の取組方針																			
(1) 2023年以降の成人式典について、式典の名称や日程等を検討する。																			
(2) 出席率が減少したため、参加者が増える施策を検討し、実行する。																			
5 令和2年度の目標（値）																			
出席率80%以上																			
※新型コロナウイルス感染症に対する対策を講じた上で、実施について検討する。																			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	18,800,000円	決算額	16,650,651円

1 事業概要

子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に桶川市放課後子供教室を運営した。

2 事業実績

- 国が推進している「放課後子ども総合プラン」に基づき、市内全小学校で放課後子供教室を実施した。
- スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、安全管理員、協力員）及び運営委員会（校長、PTA、自治会及び行政関係者、コーディネーター）を設置した。

学校名	参加児童数 (人)	活動日数 (日)	スタッフ人数 (延べ人数)	開室年度
桶川東小学校	40(29)	113(123)	49人・13団体	H24
日出谷小学校	38(41)	108(122)	39人・11団体	H24
桶川西小学校	43(46)	117(143)	49人・13団体	H27
朝日小学校	46(41)	117(138)	57人・9団体	H27
桶川小学校	48(47)	127(143)	40人・9団体	H28
加納小学校	32(33)	124(139)	42人・11団体	H28
川田谷小学校	13(24)	123(152)	68人・12団体	H28
合計人数	260(261)	—	—	—

（表は令和2年2月26日時点。表中のカッコ内は前年度実績。「スタッフ人数」は登録者(団体)数。）

※ 新型コロナウイルス感染症対策に伴う市内小・中学校の臨時休業により、2月28日（金）をもって全校閉室とした。

- 事業方針については、以下のとおり。
 - 交流の場を設けることにより、地域住民及び異なる学年との交流を支援する。
 - 体験の場を設けることにより、文化活動、体験活動、スポーツ活動等を支援する。
 - 学びの場を設けることにより、自主的な学習を支援する。

主な歳出：報償費 13,962,140円、空調機借上 1,548,720円、消耗品費 669,612円

3 上記2に対する評価

- 年間の活動を通じてスタッフと参加児童、参加児童同士、スタッフ同士の信頼関係を深めることができた。また、学校側・保護者側の理解を深めることができた。
- アンケートでは子供たちだけではなく、保護者からも「他学年や他クラスのお友達と出会えて良かった」、「普段体験できないようなことができて子供も楽しめた」、「子供が『毎日あいあいに行きたい!』と言って楽しく過ごすことができた」などといった高評価を得られた。
- 放課後児童クラブとの連携事業は、月1回程度の開催が定着化しつつあり、コーディネーターとクラブの支援員との間で良好な関係を築くことができている。

4 今後の取組方針

引き続き安定した事業となるよう、各学校のスタッフ・校長・放課後児童クラブとの調整を綿密に行う。

スタッフによる事業運営について、細かな事務の取扱い等についてできるだけ全教室で統一したものになるよう、スタッフとの協議を行う。

5 令和2年度の目標（値）

引き続き、各校それぞれの特色が出る放課後子供教室を実施する。また、スタッフの人員確保及び個々の能力の向上を図るため研修会を実施する。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1学期については休室とし、9月以降実施予定。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事 業 名	青少年健全育成事業		
予 算 額	2,278,000 円	決 算 額	2,156,467 円
1 事業概要			
<p>青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。</p> <p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>(3) 青少年育成団体への支援</p>			
2 事業実績			
<p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>第1回：令和元年7月12日（金）</p> <p>内 容：①委嘱状交付</p> <p>②桶川市青少年健全育成指針の見直しについて等</p> <p>第2回：令和2年1月16日（木）</p> <p>内 容：①桶川市青少年健全育成指針について</p> <p>②近年の青少年犯罪について</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>ア 総会・講演会の実施（6月2日、桶川東公民館で開催）</p> <p>「思春期の子どもとの接し方」～子どもの自立に向けて～をテーマに、講師に弓削多 美信氏を迎え、講演会を実施。参加者数88人（前年度108人）。</p> <p>イ 「私たちの主張」作文コンクール及び「家庭の日」ポスターコンクールを実施</p> <p>ウ 市民大会の実施（12月8日、桶川東公民館で開催）</p> <p>青少年育成埼玉県民会議より補助金を受けて、青少年育成功労賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰及び講師に「LINE オフィシャルインストラクター 福泉 敏子氏」を迎え、「楽しいコミュニケーション」を考えよう！「家庭での対話」編 ～子どものネットトラブルを防ぐための3つの対策～をテーマとする講演会を行った。参加者数192人（前年度184人）。</p> <p>エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）</p> <p>オ 親子ふれあいウォークの実施</p> <p>第1回【10/5】川田谷地区 参加者数 94名</p> <p>第2回【10/19】加納地区 ※雨天のため中止</p> <p>カ おけがわ春のふれあいフェスタへの参画（5月12日、駅西口公園で開催）</p> <p>キ 巡回指導の実施 延べ570人（前年度延べ345人）。</p> <p>(3) 青少年関係団体への支援</p> <p>各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。</p>			

〔補助金等交付実績〕

件 名	金 額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	721,967 円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	680,000 円
青少年相談員協議会補助金	154,000 円
おけがわ春のふれあいフェスタ実行委員会交付金	500,000 円

3 上記2に対する評価

- (1) 青少年問題協議会の活動については、桶川市青少年健全育成指針の方向性や、近年の青少年犯罪について、活発な意見交換を実施した。
- (2) 巡回指導の実施については、巡回指導員と定期的に連絡を取り、昨年度の実績を大きく上回る活動を行うことができた。
- (3) 青少年育成団体への支援については、キャンプやイベント等の事業費に対して財政的な支援を行うことで、青少年健全育成の推進が図られている。

4 今後の取組方針

- (1) 青少年問題協議会については、桶川市青少年健全育成指針の見直しについて、それぞれの立場からご意見を伺い、新しい指針を策定する。また、協議会で得られた情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映し、更なる連携を深めていく。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、近年の青少年を取り巻く状況に沿った事業を展開し、満足度の高い事業を実施する。
- (3) 青少年育成団体への支援については、今後とも積極的に事業ができるよう財政支援等を行い、青少年育成団体の活動を促進していく。

5 令和2年度の目標（値）

青少年健全育成指針の見直しを推進する。

青少年健全育成市民会議の事業については、感染症拡大予防の視点を最優先に、安全に事業を推進する。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、青少年健全育成市民会議の総会については書面開催、講演会については中止、おけがわ春のふれあいフェスタについても中止とした。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	26,000円	決算額	17,040円
1 事業概要	生涯学習に係る情報を広く市民に知っていただくため、生涯学習関連の情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。		
2 事業実績	<p>生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに以下の情報提供を行った。</p> <p>(1) 情報紙「生涯学習ガイド」の発行 市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月265部、8月265部、12月265部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。</p> <p>(2) 児童生徒向け学習情報紙の発行 夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を7月に発行し、児童生徒に配布した。また、公共施設にも設置した。</p> <p>歳出：需用費 17,040円</p>		
3 上記2に対する評価	各課・施設の協力の下、幅広く情報を収集し、市民及び児童生徒に対し情報提供を行うことができた。		
4 今後の取組方針	生涯学習情報の提供については、今後も各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報を発信していく。		
5 令和2年度の目標（値）	・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点による市内小・中学校の臨時休業延長に伴い、夏休みが短縮されたことから、催し物については減少するが、各課・施設に協力を呼びかけ、情報の充実を図る。		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0円	決算額	0円

1 事業概要

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師（市職員）を派遣して講座を開催した。

2 事業実績

	H29年度	H30年度	R元年度
実施回数	19回	23回	18回
参加延人数	1,393人	1,569人	1,684人

〔実施内容〕

	担当課	講座名	利用団体	参加人数
1	高齢介護課	認知症養成サポーター	一般	30名
2	高齢介護課	認知症養成サポーター	一般	40名
3	生涯学習文化財課 歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	中学生	320名
4	環境課	ソーラーオンザウォーター桶川について	中学生	161名
5	産業観光課	べに花ってな・あ・に？	中学生	161名
6	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	中学生	161名
7	生涯学習文化財課	桶川の歴史と文化について	中学生	171名
8	産業観光課	べに花ってな・あ・に？	中学生	171名
9	健康増進課	生活習慣病の予防について	中学生	171名
10	自治文化課	悪質商法にはだまされない	一般	30名
11	秘書広報課	あなたの声を市政に生かす、広聴の役割	一般	30名
12	健康増進課	バランスのとれた食事のとり方	一般	50名
13	生涯学習文化財課	桶川市の歴史と文化について	一般	10名
14	環境課	ソーラーオンザウォーター桶川について	一般	70名
15	秘書広報課	あなたにもできる広報誌づくり	一般	20名
16	生涯学習文化財課 健康増進課 産業観光課	特製メニュー（3課合同） 桶川の歴史と文化について オケちゃん健康体操 べに花ってな・あ・に？	小学生	76名
17	リサイクル推進課	みんなで作る循環型社会	一般	13名
18	高齢介護課	認知症養成サポーター	一般	30名

3 上記2に対する評価

講座メニューは28講座（特製メニュー含む）があり、そのうち前記〔実施内容〕の18講座が利用された。広報やホームページへの掲載、校長会や区長会及び当課関係各所へ周知したことにより、利用人数が増加した。

また、自治会や学校が毎年同じ講座であったり、昨年度とは違った講座であったりと、職員出前講座を頻繁に利用していただいている。今後も新規利用団体等を増やすことができれば、波及効果は大きく利用回数も伸びていくことと考えられる。

4 今後の取組方針

- ・問合せ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばす。
- ・職員に職員出前講座を周知し、講座内容を増加・充実させる。
- ・引続き広報やホームページに掲載し、広く周知するとともに、関係各所を通じてPRに努める。

5 令和2年度の目標（値）

職員出前講座の依頼団体へ満足度調査を実施する。（満足度85%以上）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、休止していた職員派遣を6月15日から開始することとした。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		
予算額	220,000円	決算額	199,909円

1 事業概要

多様な学習機会を提供するため、児童及び成人を対象とする以下の事業を実施した。
 (1)「子ども大学あげお・いな・おけがわ」
 (2)「桶川市平成市民大学」

2 事業実績

(1)「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設（全5回）

官学連携事業として、聖学院大学、日本薬科大学、桶川市教育委員会、上尾市教育委員会、伊奈町教育委員会からなる「子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会」を組織し、違う学校・学年の児童たちが、大学のキャンパスや企業などで学ぶ「児童のための大学」を実施した。

対象者：桶川市、上尾市、伊奈町在住の小学5～6年生

定員：60人（桶川市20人） 参加者：60人（桶川市15人）

回	開催日	会場	内 容	講師など
1	6/22	【聖学院大学】	入学式 「友だち100人できるかな？ ～コミュニケーション力アップのための心理学～」	金谷 京子 特任教授
2	7/13	【日本薬科大学】	「植物のもっている色の不思議 ～花の色素と酸・アルカリ～」	新井 利次 講師
3	7/27	【聖学院大学】	「わたしの物語とみんなの物語を体験しよう！～みんな違う物語を持ちながら、ひとつの物語を生きている～」	大橋 良枝 教授
4	8/21	【埼玉新都市交通(株)】	「ニューシャトルを探検しよう」	埼玉新都市交通(株)のみなさん
5	9/8	【聖学院大学】	「『酸性雨』ってなんだろう？～地球をむしばむ環境問題を考えてみよう～」 発表会・修了式	野澤 直美 客員教授

主な歳出：子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会負担金 50,000円

(2)「桶川市平成市民大学」の開設（9回）

生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを充実していく場として、事業を実施した。

テーマ：「生き甲斐をもって生きる」

参加者数：63人（前年度66人）参加延人数：466人（前年度489人）

主な歳出：講師等謝礼130,000円

回	開催日	内 容	講師など
1	8/22	開講式 桶川市長による講義	桶川市小野 克典 市長
2	9/ 5	講義「埼玉の三偉人から“共生のこころ”を 考える～埴保己一・渋沢栄一・荻野吟子」	立正大学 堺 正一 元教授
3	9/19	講義「石に記録された地球環境の変化」	立正大学川野 良信 教授
4	10/ 3	講義「古代文学と東アジア世界～『令和』の 背景を探る」	聖学院大学 渡辺 正人 教授
5	10/17	講義「スポーツ文化の『現代』を識る～『近 代スポーツ』の功罪」	日本体育大学 荻 浩三 教授
6	11/ 7	「桶川市内歴史散策（中山道地区）」	桶川市ガイドボランティア
7	11/21	講義「健康食品や統合医療情報の見極め方 ～広告にだまされないために～」	日本薬科大学 新井 一郎 教授
8	12/ 5	講義「自家製お屠蘇で新年を迎えましょう ～令和の年の新処方お屠蘇～」	日本薬科大学 山路 誠一 准教授
9	12/ 9	桶川市教育長による講義 閉講式	桶川市教育委員会 岩田 泉 教育長

3 上記2に対する評価

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわ

- ・各回事故等なく、安全に事業を進めることができた。
- ・参加児童に対する総合アンケートにおいて、満足度は98%だった。

(2) 桶川市平成市民大学

幅広い分野の講座を実施するとともに、講師に大学教授などを招き、内容の向上に努めたため、受講生の理解を深めることができた。講義内容を工夫することで、多くの方に学習機会の提供を行うことができた。

4 今後の取組方針

(1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」は桶川市分の定員20名程度の応募があるよう周知等を行う。

(2) 「桶川市平成市民大学」は、平成から令和へ元号が変わったことから、名称変更のアンケートを実施し、令和2年度から名称を「桶川市民大学」に改めることとなった。今後も受講者の期待に応えるよう大学等と連絡を取りながら講義内容の充実を図る。

5 令和2年度の目標（値）

参加者の満足度の向上を目指す。

(参考：① 令和元年度子ども大学参加児童満足度アンケート結果（42人回収）
とても満足…83.3%（35人） 少し満足…14.2%（6人）
② 令和元年度平成市民大学参加者アンケート結果（42人回収）
とてもよかった…41.3%（17人）、よかった…33.9%（14人）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「子ども大学あげお・いな・おけがわ」については中止、「桶川市民大学」については11月以降開講予定。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる														
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）														
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）														
事業名	文芸桶川発行														
予算額	447,000円	決算額	443,750円												
1 事業概要															
文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川第40号」を発行した。															
2 事業実績															
(1) 発行部数等															
・発行部数：213部 ・無償配布部数：執筆者、市内公共施設、学校等：172部															
・有償頒布部数：41部（頒布価格：1冊800円 一般部門の応募料：400円）															
(2) 編集委員会															
文化団体連合会文学会（2人）、図書館実作協議会・俳句連盟・短歌関係団体・教育研究会（各1人）から選ばれた6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。															
(3) 掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数）															
一般部門は応募作品全て掲載し、ジュニア部門は応募174作品から選考し、68作品を掲載した。（挿絵含む）															
○一般部門の掲載作品数（掲載者数）															
小説2編（2名）、随筆7編（7名）、評論1編（1名）、詩6編（6名）、短歌90首（18名）、俳句149句（30名）、川柳15句（3名）、絵1点（1名）															
○ジュニア部門の掲載作品数（掲載者数）															
小説5編（5名）、童話1編（1名）、随筆1編（1名）、詩3編（3名）、短歌28首（28名）、俳句27句（27名）挿絵3点（3名）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29年度</th> <th>H30年度</th> <th>R元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作品点数</td> <td>405点</td> <td>425点</td> <td>445点</td> </tr> <tr> <td>応募者数</td> <td>192名</td> <td>220名</td> <td>242名</td> </tr> </tbody> </table>					H29年度	H30年度	R元年度	作品点数	405点	425点	445点	応募者数	192名	220名	242名
	H29年度	H30年度	R元年度												
作品点数	405点	425点	445点												
応募者数	192名	220名	242名												
歳出：印刷製本費 398,750円、編集委員謝礼 45,000円															
3 上記2に対する評価															
ジュニア部門に多数の応募作品があったため、審査選考を編集委員が行い、掲載作品の選出を行った。一般部門の応募者の高齢化により作品数が減少しているが、ジュニア部門の応募者が増加した。															
4 今後の取組方針															
・応募者を増やすため、作品の募集を、広報やホームページに掲載し、公民館・図書館の各施設に応募用紙を設置したり、第40号執筆者に応募案内を送ったりする。また、編集委員や所属の文芸団体会員から知人などへ応募の呼びかけをしていただく。															
・表紙絵・中扉絵・挿絵は、編集委員会で作品制作者を探して依頼する。															
5 令和2年度の目標（値）															
広報に載せる回数を増やしたり、閲覧場所を増やしたりするなどのPR活動を行い、頒布部数を増やす。															

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる																						
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）																						
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）																						
事業名	パソコン講習とサポート事業																						
予算額	233,000円	決算額	216,402円																				
1 事業概要																							
<p>視覚障がい者からのパソコンの疑問や相談に応じる「視覚障がい者向けパソコン相談会」を実施した。また、パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川ITネットとの共催事業で、「パソコン講座」及び「パソコンサポートセンター」を実施した。</p>																							
2 事業実績																							
<p>(1) 視覚障がい者向けの疑問や相談に応じるパソコン相談会は、毎月第2・第4金曜日に実施した。(令和元年度は21回実施、参加者は延べ22名。)</p> <p>(2) パソコン講習については、令和元年度より共催事業となり、8講座実施した。</p>																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>受講者数(定員)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初心者講座 (2コース)</td> <td>26人(各回19人、計38人)</td> </tr> <tr> <td>はじめてのインターネット講座(1コース)</td> <td>14人(19人)</td> </tr> <tr> <td>ワード基礎講座 (2コース)</td> <td>25人(各回19人、計38人)</td> </tr> <tr> <td>エクセル基礎講座 (2コース)</td> <td>27人(各回19人、計38人)</td> </tr> <tr> <td>年賀状作成講座 (1コース)</td> <td>18人(19人)</td> </tr> <tr> <td>ワード応用講座 (1コース)</td> <td>18人(19人)</td> </tr> <tr> <td>エクセル基礎講座 (2コース)</td> <td>26人(各回19人、計38人)</td> </tr> <tr> <td>デジカメ写真活用講座 (1コース)</td> <td>9人(19人)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>163人</td> </tr> </tbody> </table>				講座名	受講者数(定員)	初心者講座 (2コース)	26人(各回19人、計38人)	はじめてのインターネット講座(1コース)	14人(19人)	ワード基礎講座 (2コース)	25人(各回19人、計38人)	エクセル基礎講座 (2コース)	27人(各回19人、計38人)	年賀状作成講座 (1コース)	18人(19人)	ワード応用講座 (1コース)	18人(19人)	エクセル基礎講座 (2コース)	26人(各回19人、計38人)	デジカメ写真活用講座 (1コース)	9人(19人)	合計	163人
講座名	受講者数(定員)																						
初心者講座 (2コース)	26人(各回19人、計38人)																						
はじめてのインターネット講座(1コース)	14人(19人)																						
ワード基礎講座 (2コース)	25人(各回19人、計38人)																						
エクセル基礎講座 (2コース)	27人(各回19人、計38人)																						
年賀状作成講座 (1コース)	18人(19人)																						
ワード応用講座 (1コース)	18人(19人)																						
エクセル基礎講座 (2コース)	26人(各回19人、計38人)																						
デジカメ写真活用講座 (1コース)	9人(19人)																						
合計	163人																						
<p>(3) パソコンサポートセンターは、令和元年度より共催事業となり、毎週金曜日に実施した。(令和元年度は44回実施、参加者は延べ284名。)</p> <p>主な歳出：パソコンリース料 186,882円、講師等謝礼 14,400円</p>																							
3 上記2に対する評価																							
<p>パソコン講座を受講後、パソコンサポートセンターで復習や予習をする等、積極的にパソコンを勉強している高齢者が多くみられた。</p>																							
4 今後の取組方針																							
<p>令和元年度は、平成30年度まで実施していた全ての講座を、主催事業から共催事業に変更したが安定した運営ができたため、今後のパソコン事業の在り方を検討する。</p>																							
5 令和2年度の目標(値)																							
<p>パソコンサポートをPRする機会を増やし、参加者を増やす。</p> <p>(令和元年度は1回平均6.4名のため、令和2年度は1回平均7名以上)</p>																							

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	4,264,000円	決算額	4,015,819円
1 事業概要			
<p>生涯学習推進体制の整備のため、次の（1）から（3）までの会議を開催し、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見を聴取した。また、（4）社会教育指導員を配置することで社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。</p> <p>（1）桶川市生涯学習推進会議の開催 （2）桶川市社会教育委員会議の開催 （3）社会教育関係委員合同研修会の開催 （4）社会教育指導員の設置</p>			
2 事業実績			
<p>（1）桶川市生涯学習推進会議の開催</p> <p>第1回 令和元年6月18日（火） 内 容：平成30年度の主な生涯学習推進事業報告 令和元年度の主な生涯学習推進事業計画</p> <p>第2回 令和元年12月10日（火） 内 容：桶川市生涯学習推進指針について 令和元年度の主な生涯学習推進事業中間報告</p> <p>（2）桶川市社会教育委員会議の開催</p> <p>第1回 令和元年5月22日（水） 内 容：①平成30年度生涯学習に関する主な事業報告 ②令和元年度生涯学習に関する事業計画 ③令和元年度社会教育関係補助金・交付金について</p> <p>第2回 令和元年8月20日（火） 内 容：①社会教育委員会議の取りまとめに向けて</p> <p>第3回 令和元年11月7日（木） 内 容：①委嘱状の交付 ②第50回関東甲信越静社会教育研究大会（埼玉大会）へ参加</p> <p>第4回 令和2年2月24日（月・祝） 内 容：①会議計画について</p> <p>（3）社会教育関係委員合同研修会の開催 開催日：令和2年2月24日（月・祝） 内 容：①公民館と地域福祉～だれもが学べる公民館～ 立正大学講師による講義 対 象：社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員</p>			

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2人に委嘱した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、平成市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

歳出：主な報酬及び報償費 3,455,100 円、費用弁償 27,100 円

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

桶川市における生涯学習に関する事業について意見を伺い、今後の事業計画に生かすことができた。

(2) 桶川市社会教育委員会議の開催

2年間の社会教育委員会議で協議したことを「社会教育委員会議の取りまとめ」としてまとめ、社会教育委員会議委員長より、教育長へ提出できた。

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

上記2つの委員と公民館運営審議会委員が共通のテーマを基に研修に参加し、生涯学習推進の方向性について情報を得ることができた。

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育についての高い専門性に基づき、小・中学校PTA連合会活動の支援や平成市民大学の開講、その他各種講座等を開催した。

4 今後の取組方針

(1) 桶川市生涯学習推進会議

桶川市の生涯学習における事業の推進について調査・審議していく。

(2) 桶川市社会教育委員会議

「社会教育の普及・振興」について審議していく。

(3) 社会教育関係委員合同研修会

社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。

(4) 社会教育指導員

社会教育事業の企画・立案及び社会教育関係団体の指導・育成に務めていく。

5 令和2年度の目標(値)

社会教育関係委員合同研修会にて、時代の流れに即したテーマで研修を行い、満足度85%以上を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	13,000円	決算額	11,641円
1 事業概要			
学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾一人財バンク」に登録し、活用を図った。			
2 事業実績			
<p>(1) 登録状況：登録者数 60 人（前年度 57 人）、登録団体数 14 団体 ※芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野に亘る。</p> <p>(2) 利用状況 ①腹話術、手品(子供) ②手品(子供) ③華道・茶道（一般） ④手品(子供) ⑤手品(子供) の計 5 件である。※前年度 5 件</p> <p>(3) 活動の周知策として、広報・ホームページへ掲載するとともに、13 の個人(9)・団体(4)が参加した「人財バンク実演・展示会」を、8月3日に大型商業施設（市民活動サポートセンター、センターコート、イーストコート）を会場に開催し、其々の特技・知識を市民の前で発表した。来場者数は 215 人。</p>			
3 上記2に対する評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と利用数は同数だが、小学生等の子供を対象とした利用件数は、ほぼ昨年度同様であり、各所団体で潜在的な需要はある。広く周知を行うことで、潜在的なニーズ解消が見込める。 ・PR の場である実演展示会は参加者からの希望もあり、昨年度同様、大型商業施設で実施することができた。 			
4 今後の取組方針			
桶川み・ら・い塾一人財バンク利用システムを市民へ広く周知するため、「人財バンク」のPR情報紙を作成し、各所に設置・配布をする。			
5 令和2年度の目標（値）			
<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、派遣依頼が減少することを考慮し、昨年度同水準の5件を目指す。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実演展示会を中止とした。また、休止していた依頼の受付を6月15日から開始することとした。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	人権教育の推進		
予算額	4,350,200円	決算額	3,835,921円

1 事業概要

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

2 事業実績

(1) 桶川市人権教育推進協議会

① 協議会

- 第1回 開催日：令和元年7月2日（火）
内 容：平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画 等
- 第2回 開催日：令和2年2月12日（水）
内 容：令和元年度事業報告及び令和2年度事業計画案 等

② 研修会

- ・企業等対象人権問題研修会
開催日：令和元年7月23日（火） 桶川東公民館
内 容：「豊かな人権感覚は、企業を変える」
講 師：埼玉県県民生活部 人権推進課 須藤 一郎 氏
参加者数：20人（前年度21人）
- ・人権教育・啓発講演会
開催日：令和2年2月5日（水） 桶川東公民館
内 容：「命の輝き～車イスから見える世界ってけっこう素敵～」
講 師：埼玉県家庭教育アドバイザー 又野 亜希子 氏
参加者数：90人（前年度78人）

(2) 桶川市立集会所事業

① 成人学級講座（カッコ内は前年度）

回	内容および講師	桶川集会所	加納集会所	参加者
1	「家庭の中にある人権問題」（DVD視聴）	5/24(金)		83人
2	「子供の人権」（講演）	7/ 5(金)		37人
3	「同和問題」（DVD視聴）	8/30(金)		87人
4	「様々の人権」（DVD視聴）	11/15(金)		79人
5	「第46回憲法・人権市民のつどい」	※12/21(土)		
6	「北朝鮮当局による拉致問題」（DVD視聴）	2/ 8(金)		86人
合 計		372人（429人）		

※満足度調査の結果は95%が満足、やや満足であった。

※第5回については12月21日（土）実施の「第46回憲法・人権市民のつどい」と共催し、全体で180名の参加がありました。

② 文化講座を次表のとおり実施した。(カッコ内は前年度)

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数
加 納	書道教室	16 人	236 人(374)
	編み物教室	25 人	473 人(463)
桶 川	書道教室	20 人	409 人(423)
	デコパージュ教室	18 人	328 人(377)

③ 夏休み子供教室については、人権アニメの視聴、折紙教室、習字教室を実施し、延べ参加人数は 24 人（前年度 43 人）であった。参加者の平均満足度は、3.7 点【最高 4 点】（前年度 3.6 点）だった。

④ 集会所文化講座作品展

日時・会場：令和元年 12 月 7 日(土) 桶川集会所

展示作品：書道、編物、デコパージュ作品 99 点（98 点）

来場者数：67 人（前年度 62 人）

○集会所事業主要経費

項 目	経 費
文化講座講師謝礼	563,200 円
集会所光熱水費	614,849 円
集会所管理委託	1,421,111 円
集会所清掃委託	364,470 円
合 計	2,963,630 円

3 上記 2 に対する評価

- (1) 企業等対象人権問題研修会については参加企業が少ないため、引き続き事前に企業訪問を行い、説明・啓発を図る必要がある。
- (2) ①成人学級については、ある程度の出席率を保っており、満足度は約 90%であるため、今後も研修内容の充実を図っていく必要がある。
- (3) ②③文化講座及び夏休み子供教室については、より多くの参加を促すため、市内各小学校の夏季休業中の行事日程の確認や日程調整等を行う必要がある。広報誌掲載及び学校を通しての募集活動を行う。

4 今後の取組方針

- ・桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる人々の意識を高めていく。
- ・企業等人権問題研修会については、今日的な課題について意欲的に実践が図れる講師選定、企業への声掛け強化、実施時期の再検討を行い、参加企業の増加を目指す。また、市内不動産業者の参加に向け、直接事業所を訪問して周知を行う。

5 令和 2 年度の目標（値）

①研修会 人権教育・啓発講演会 100 人、企業等対象人権問題研修会 25 人

②成人学級 延べ参加者 500 人、満足度調査（90%以上）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、夏休み子供教室については中止、文化講座については 9 月以降の開室とした。その他の事業についても、今後の状況により中止、延期、回数等の変更が生じる場合がある。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	833,000円	決算額	755,360円

1 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者等に対し、当該文化財の管理又は維持に要する経費として「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、文化財の修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

2 事業実績

(1) 桶川市指定文化財保存管理交付金

文化財の指定区分に従い、以下のとおり交付金を交付した。

国指定文化財 10,000円×1件＝10,000円

県指定文化財 7,500円×5件＝37,500円

市指定文化財 5,000円×23件＝115,000円

合 計 162,500円

区 分	件数	種別	種類	名 称
国指定文化財	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）
県指定文化財	1	有形	建造物	桶川宿本陣遺構
	2	記念物	史跡	熊野神社古墳
	3	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）
	4	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ
	5	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）
市指定文化財	1	有形	建造物	諏訪神社本殿
	2	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二躯
	3	有形	建造物	矢部家住宅
	4	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠
	5	有形	歴史資料	天満神社の木製の額（氷川天満神社）
	6	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書
	7	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書
	8	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書
	9	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書
	10	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基
	11	民俗	有形民俗	稲荷神社の力石
	12	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆
	13	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ
	14	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ
	15	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ
	16	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式
	17	記念物	史跡	木戸跡（下）
	18	記念物	史跡	木戸跡（上）
	19	記念物	史跡	加納城址
	20	記念物	天然記念物	シイガン

	21	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ
	22	記念物	天然記念物	ムクロジ
	23	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜

(2) 桶川市文化財保存事業費補助金

補助金交付要綱に則り、以下のとおり補助金を交付した。

区分	種別	種類	名称	内容	事業費	補助率	補助額
国登録	有形	建造物	島村家住宅土蔵	白蟻消毒	176,040円	1/2	88,020円
県指定	有形	建造物	桶川宿本陣遺構	土台修繕	737,000円	1/4	184,500円
市指定	有形	建造物	矢部家住宅	畳替え	211,680円	1/2	105,840円
市指定	記念物	天然記念物	シイガシ	樹勢回復	429,000円	1/2	214,500円
計							592,860円

※ 桶川宿本陣遺構は、事業費から県費補助金(368,000円)を差し引いた残額の1/2

※ 30年度は3件：167,346円、29年度は2件：2,248,560円

3 上記2に対する評価

- (1) 交付金交付事業を通して、文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者及び管理者の協力を得て、指定文化財を適切に管理することができた。
- (2) 補助金交付事業により貴重な文化財の管理、補修等を行うことで、今後の文化財の保存と継承に寄与することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 交付金交付事業については、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。また、新規に指定された文化財に対しては、その都度、対応する。
- (2) 補助金交付事業については、所有者及び管理者に対し、引き続き制度の周知を図ると共に、職員による定期的な文化財の現状確認を行うことで、所有者との連携を深め、計画的な文化財の修理・保存につなげていく。

5 令和2年度の目標(値)

- (1) 交付金交付事業について、継続して、交付対象である全29件に対し交付を行う。
- (2) 補助金交付事業について、事前相談のあった2件(シイガシ、島村家住宅土蔵)に対し、交付を行う。また、所有者及び管理者に制度の周知を図り、必要に応じて聞き取りを行うなど、修繕等が必要な文化財の把握を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	570,000円	決算額	540,000円

1 事業概要

伝統的な民俗芸能の伝承団体に対して、その保存、伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2 事業実績

交付金額 30,000円×18団体＝540,000円

〔交付対象民俗芸能及び伝承団体〕

No.	芸能の名称	団体の名称
1	岡村の囃子	岡村囃子連
2	岡村の万作	岡村万作保存会
3	加納の餅つき踊り	加納餅つき踊り保存会
4	上日出谷の囃子	日出谷会
5	倉田の囃子	倉田囃子保存会
6	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会
7	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会
8	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連
9	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会
10	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会
11	諏訪の万作	諏訪万作保存会
12	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会
13	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会
14	松原の真言	松原真言保存会
15	松原の万作	松原万作保存会
16	三田原の万作	三田原万作連
17	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会
18	薬師堂の囃子	薬師堂囃子連

※例年、交付対象団体は19件だが、令和元年度は「三田原のささら獅子舞」が活動休止のため、18件となった。

3 上記2に対する評価

交付金を通して、民俗芸能伝承団体の活動に対する支援や後継者育成等に寄与することができた。また、各地域の祭礼等に参加することで、各民俗芸能伝承団体の活動を記録すると共に、実際に活動されている方の意見なども聞くことができた。

4 今後の取組方針

民俗芸能に関する情報を収集し、交付金の交付をはじめ、県や民間の助成金の情報提供及び民俗芸能伝承団体が活動できる場の提供など、広く支援活動を行う。また、活動の継続が難しくなっている団体や活動を再開した団体があれば、随時対応をしていく。

5 令和2年度の目標（値）

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止による祭事等の開催自粛に伴い、市内の民俗芸能伝承団体についても、その公演や練習等の活動が困難な状況にあると考えられる。

このような現状を考慮して、令和2年度の交付金事業については、活動実績のなかった場合においても、①年度末において引き続き民俗芸能伝承団体として存続していること②年度内の活動実績がなかった場合の理由が新型コロナウイルス感染拡大防止を起因としていることの以上2点の要件を満たしている場合は、団体の活動が継続して実施されているものとみなし、引き続き交付対象である19団体に対し、例年どおり交付金の交付を行うものとする。

(2) 民俗芸能の公演が再開された際には、民俗芸能調査として、地域の祭礼等に積極的に参加し、民俗芸能伝承団体の活動記録を取ると共に、各団体の抱える問題点などを伺う機会とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	後谷遺跡出土品保存処理事業【国庫補助事業】		
予算額	4,500,000円	決算額	4,499,000円

1 事業概要

国指定重要文化財の後谷遺跡出土品について、適切な保存管理・活用を行い、将来へ引き継いでいくことを目的に必要な保存処理を実施した。

2 事業実績

保存処理は、漆製品、木製品、土製品等の出土品の内、脆弱な物や修理・修復が必要な物に対して行う。

令和元年度は、土器13点（壺形土器1点、鉢形土器7点、浅鉢形土器2点、注口土器3点）、土製品2点（土偶2点）についての保存処理と、より良好な保存状態を確保するために内5点（壺形土器1点、鉢形土器1点、注口土器3点）については、専用の保存箱を作製した。

また、業務委託先に訪問して、文化庁職員の立会いのもと、着実に作業が行われているかの確認（修理監督）を行った。



3 上記2に対する評価

土器及び土製品15点について保存処理を実施し、内5点については保存箱・保存台の作製を実施することで、劣化の進行や損傷を防ぎ、重要文化財の適切な保存管理と継承ができるようになった。

4 今後の取組方針

- (1) 当初は、平成24年度から平成30年度までの7ヵ年計画により、出土品645点の内修理等を必要とする280点（土器・土製品215点、木器・木製品52点、漆製品13点）に対して保存処理を実施する予定だったが、文化庁との協議に基づき、更に2ヵ年（令和2年度まで）延長して、土器・土製品18点と保存台の作製を実施する。
- (2) 保存処理の終了したものについては、歴史民俗資料館に収蔵し、特別展示等の一般公開の機会を創出する。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) 土器3点の保存処理及び出土品の散逸防止のための保存台の作製を実施する。
- (2) 保存処理事業の最終年として、本事業で得られた知見や修理概要等を紹介し、情報発信をするための図録を刊行する。
- (3) 保存処理が済んだ出土品については、可能な限り歴史民俗資料館の展示、市外の博物館などに貸し出すことにより、その活用及び周知を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業		
予算額	194,000円	決算額	98,700円

1 事業概要

新たな文化財指定や登録に向けた未指定文化財の調査、情報収集や既存の指定文化財の現状確認のための調査等を実施した。

2 事業実績

- (1) 寿2丁目地内の「島村老茶舗」について、国登録有形文化財に向けた文化財調査及び意見具申書の提出を行った。その後、国の文化審議会から、本件を国登録有形文化財に登録する旨の文部科学大臣への答申を経て、令和2年4月3日付け官報にて告示され、正式に文化財登録原簿に登録された。
- (2) 寿2丁目地内の国登録有形文化財「島村家住宅土蔵」の白蟻消毒の散布方法について、指導及び立会いを実施した。



(1) 島村老茶舗



(3) 本陣湯殿 土台修理後

- (3) 寿2丁目地内の県指定文化財「桶川宿本陣遺構」について、土台修繕工事を実施するにあたり、修理工法の検討や工事立会いを実施した。

- (4) 大字川田谷地内の県選定重要遺跡「三ツ木城跡」について、市の公園用地として都市計画決定がされており、用地買収計画があることから現況確認を行った。

- (5) 大字川田谷地内の市指定文化財「普門寺のしだれ桜」について、近年樹勢の衰退が顕著であることから、樹木医に診断を依頼し、樹勢回復のための助言を得るための調査を実施した。
- (6) 大字川田谷地内の市指定文化財「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物」について、桶川市文化財保護審議会委員による復原整備工事の竣工後の現地確認を実施した。



(5) 普門寺のしだれ桜 状況調査

- (7) 大字加納地内の市指定文化財「名号塔兼ねたみちしるべ」について、県道の拡幅事業に伴い支障が生じたことから、現況を確認し、移設を実施した。
- (8) 大字五町台地内の市指定文化財「シイガシ」について、所有者が実施する樹勢回復作業の立会いを実施した。
- (9) 桶川祇園祭の際に下中町（栄会）の山車の上に飾られた「栄町屋台人形」について、来歴等の情報収集を行った。
- (10) 大字小針領家地内の小針領家三仏堂で、市史に掲載されている仏像の保存状態や戸長役場関係の資料を確認した。
- (11) 台風19号に伴う市内文化財の被害状況調査を実施した。



(11) 台風19号による冠水被害（原山古墳群）

3 上記2に対する評価

文化財調査を実施することにより、指定済及び未指定の文化財の保護、保存につながる貴重な情報を得ることができた。

4 今後の取組方針

- (1) 指定候補物件のリストの見直しや再検討を行い、文化財指定に向けた調査の基礎資料を再整理する。
- (2) 新たな指定候補の発見や情報収集に努め、指定候補物件への引き上げを検討するための基礎資料を併せて作成する。
- (3) 上記の基礎資料を基に優先順位を定め、指定に向けた調査等を実施していく。
- (4) 平成30年の文化財保護法の改正により、都道府県はその域内における指定・未指定の文化財の計画的な保存活用の促進や地方文化財保護行政の推進を図るための総合的な施策の大綱（文化財保存活用大綱）を、市町村は都道府県の作成した大綱を勘案し、地域の課題や文化財の状況を踏まえた文化財の保存活用に関する総合的な計画（文化財保存活用地域計画）をそれぞれ策定することができる旨が規定された。
これに伴い、令和元年度に県が「埼玉県文化財保存活用大綱」を策定したことから、県の大綱を勘案した「桶川市文化財保存活用地域計画」の策定に取り組んでいく。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) 現在作成済の指定候補物件のリストを元に、これまでの調査や資料整理を通して、資料的価値が高いと考えられるものを追加し、見直しや再検討を行い、文化財指定に向けた調査の基礎資料を再整理するとともに、新たな指定候補の発見や情報収集に努め、指定候補物件への引き上げを検討するための基礎資料を併せて作成する。
- (2) 上記の基礎資料を基に、文化財保護審議会での優先順位を定め、指定に向けた調査等を実施する。
- (3) 個人所蔵の指定済の文化財（特に古文書等）について、現在の保管状態を確認するための調査を実施する。
- (4) 「桶川市文化財保存活用地域計画」の策定に取り組むにあたり、桶川市歴史民俗資料館の協力を得ながら、近隣市町の動向やスケジュール感等の確認、調整を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる					
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）					
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）					
事業名	管理運営経費					
予算額	224,204,000円	決算額	223,637,204円			
1 事業概要 図書館サービスの充実を図るため、図書館の維持管理業務を行った。						
2 事業実績						
(1) 貸出者数、貸出冊数の推移						
		中央	桶川	川田谷	坂田	合計
貸出者数 (人)	平成29年度	133,699	3,252	5,000		141,951
	平成30年度	123,387	14,556	3,429		141,372
	令和元年度	113,290	12,405	4,003	25,840	155,538
貸出冊数 (冊)	平成29年度	390,999	10,409	18,420		419,828
	平成30年度	365,170	44,812	13,130		423,112
	令和元年度	329,102	36,681	14,270	94,980	475,033
(2) OKEGAWA honプラスイベントスペースにおいて、イベントを55回開催（延べ82回）参加人数延べ1,822人						
3 上記2に対する評価						
(1) 中央図書館は、貸出者数が10,097人減、貸出冊数が36,068冊減。桶川図書館は、前年度より貸出者数が2,151人減、貸出冊数が8,131冊減。川田谷図書館は、貸出者数が574人増、貸出冊数が1,140冊増。坂田図書館が新規開館し、貸出者数が25,840人、貸出冊数が94,980冊。全体で昨年と比較すると、貸出者数が14,166人の増加、貸出冊数が51,921冊の増加となった。全館指定管理者で運営を行った本年度の利用についての総合満足度は、74%であった。						
(2) OKEGAWA honプラスイベントスペースを利用した官民連携の文化交流事業を実施し、生涯学習の場、多世代交流の場を提供した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になったイベントもあり、イベント回数、延べ参加人数が前年度より減少となったが、連続講座「じてんしゃ王国埼玉」などの企画を開催し、図書館事業の充実を図った。						
4 今後の取組方針						
(1) 市内4館の安定した運営を図り、情報共有を密にし、均質なサービスの提供を行う。						
(2) 指定管理による自主事業の開催の充実を図る。						
5 令和2年度の目標（値）						
(1) 利用者ニーズに合った図書資料の充実を図り、貸出冊数年間496,000冊を目指す。						
(2) 利用者アンケートの総合的な満足度80%以上を目指す。						
※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、OKEGAWA honプラスイベント及び図書館事業は、中止・延期となっている。						

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業		
予算額	46,929,000円	決算額	46,536,992円
1 事業概要			
図書資料を購入し、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。			
2 事業実績			
(1) 図書資料の購入			
摘要	購入冊数	(前年比較)	購入金額
図書資料	9,080冊	減5,786冊	16,028,738円
			(前年比較)
			増4,568,426円
その他資料（地図・法令集等）購入金額 52,488円			
(2) セカンドブック事業の実施 実施人数 603人 金額 808,413円			
(3) 読み聞かせボランティア養成講座の開催 参加者 42人			
(4) おはなし会：実施回数 148回 参加者 子ども893人 大人556人			
対面朗読：実施回数 21回 参加者 21人			
(5) ボランティアとの協働事業			
「子どもへの読み聞かせの指導・読み聞かせの実践」			
参加児童 読み手 8人 聞き手 24人 ボランティア（指導） 7人			
3 上記2に対する評価			
(1) 9,080冊の資料を購入し、蔵書を更新した。全体で3,275冊の図書資料を除籍し、うち比較的程度の良い本702冊をリサイクル本として利用者に提供した。			
(2) 小学1年生を対象に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援した。			
(3) 読み聞かせボランティア養成講座を実施し、子どもへの読み聞かせボランティアの養成をおこなった。			
(4) 及び(5) ボランティア団体の協力や支援により事業を実施し、子どもへの読み聞かせや視覚に障がいのある方への対面朗読が実施できた。			
4 今後の取組方針			
(1) 坂田図書館に所蔵する図書資料の充実を図る。			
(2) 学校と連携して小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。			
(3) 「読書アルバム」を小学生以下対象に、希望者に対して図書館にて配付する。小学1年生は学校に依頼し、全員に配付する。			
(4) より良い図書館運営を進めるために、ボランティアとの協働をさらに充実させる。			
5 令和2年度の目標（値）			
・貸出冊数年間496,000冊を目指し、利用者ニーズに合った図書資料の充実を図る。			
・図書充足率（人口1人当たり）			
平成30年度実績の埼玉県平均 3.18冊を上回る。（本市 2.92冊）			

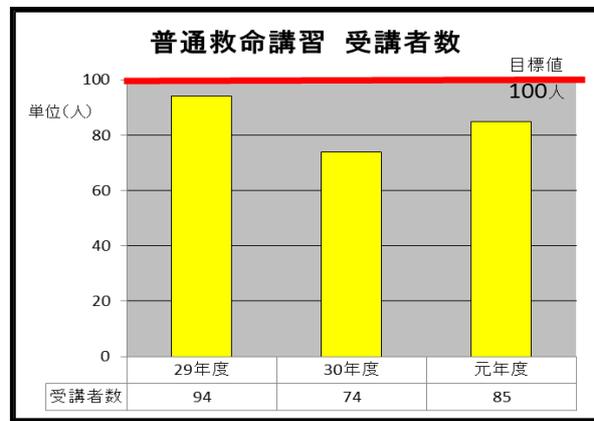
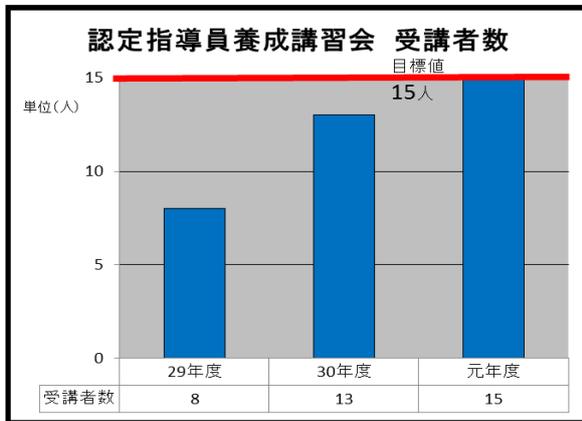
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	スポーツ指導者育成事業		
予算額	2,188,000円	決算額	1,908,580円

1 事業概要

市民の健康増進に寄与するスポーツ指導者の育成支援を行った。

2 事業実績

- (1) 桶川市スポーツ推進委員、桶川市スポーツ少年団及び桶川市スポーツ協会に情報提供を行い、その活動を支援した。＜報酬：1,731,500円、費用弁償：177,080円＞
- (2) 桶川市スポーツ推進委員、桶川市スポーツ少年団の指導者、桶川市スポーツ協会加盟団体及び学校施設開放利用団体を対象に「普通救命講習」を実施した。（受講者：85人）



3 上記2に対する評価

- (1) 各種研修会に多くのスポーツ指導者等が積極的に参加した。特に桶川市スポーツ少年団は認定指導員養成講習会に参加し、目標を達成し15人が指導者となった。
- (2) 各団体において「普通救命講習」を実施し、AEDの取り扱いや応急手当について知識を深めたことにより、指導者の資質が図れた。

4 今後の取組方針

- (1) スポーツ指導者を対象とした研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。
- (2) 「普通救命講習」をスポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体及びスポーツ少年団、学校体育施設開放利用団体に継続的に実施する。また、過去に受講された方にも再度受講を促し、指導者としての資質の向上を図る。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) 認定指導員養成講習会受講者数 20人
- (2) 普通救命講習受講者数 100人

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、4月に予定されていた桶川市スポーツ推進委員の普通救命講習会が中止となったが、今後の収束を見込み、前年度同様の100人とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	5,840,000円	決算額	5,799,630円

1 事業概要

生涯スポーツの推進及び健康増進を図るため、各種スポーツ団体に対し支援を行った。

2 事業実績

(1) スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

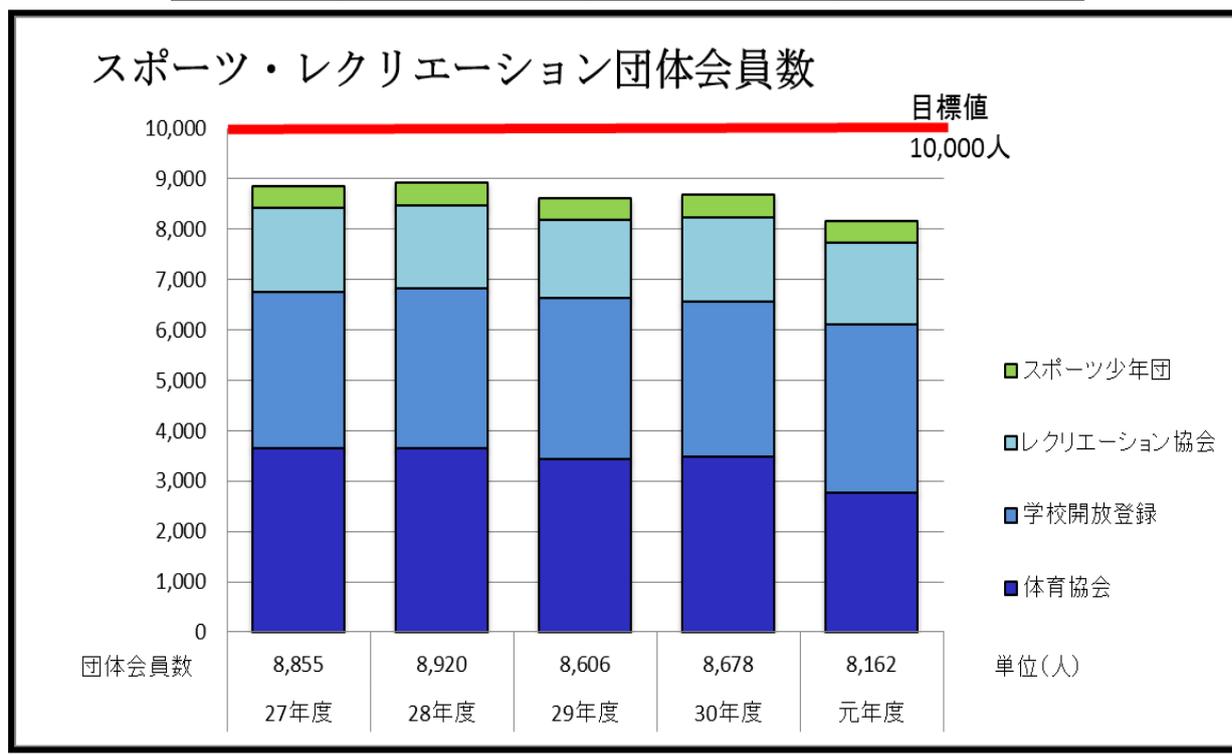
件名	金額
桶川市スポーツ協会補助金	1,600,000円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000円

(2) スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施した。

件名	金額
地区別体育祭運営交付金	2,359,630円
スポーツフェスティバル交付金	400,000円
駅伝競走大会交付金	400,000円

(3) スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
会員数	8,606人	8,678人	8,162人



3 上記2に対する評価

- (1) 各種活動団体に補助金を交付することにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与することができた。
- (2) 12年目を迎えた地区別体育祭は、各地区に対して助成した結果、各地区実行委員会が中心となって地域の特色を生かした体育祭が開催された。
- (3) スポーツ・レクリエーション団体会員数は減少し、目標値の10,000人に届かなかったことから、更なる会員数の増加に繋がるような取組が必要である。

4 今後の取組方針

- (1) 各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、多世代間の交流を行い、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。
- (2) 学校開放備品の充実、メンテナンスを行い、スポーツ・レクリエーション団体が活動しやすい環境を作り、会員数の増加を目指す。
- (3) 日体大や西武ライオンズとの相互連携協定に基づき、スポーツ教室や研修会への教職員や学生の派遣により、生涯スポーツの普及・推進に繋げる。
なお、日体大との連携事業としては、「ウォーキング教室」をはじめ、「スポーツフェスティバル」などのイベントでの連携を推進する。

5 令和2年度の目標（値）

スポーツ・レクリエーション団体会員数 10,000人

※内訳（スポーツ協会4,000人【3,338人】、スポーツ少年団600人【417人】、レクリエーション協会1,900人【1,627人】、学校開放団体3,500人【2,780人】）

【 】内は、令和元年度の実績。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	スポーツ施設維持管理事業		
予算額	93,193,000円	決算額	90,728,360円

1 事業概要

スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。

2 事業実績

(1) 体育施設の管理<施設管理委託 69,020,000円ほか>

サン・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託し、体育施設の維持管理を行った。

<利用状況>

区分	平成30年度	令和元年度
サン・アリーナ	249,711人	243,535人
舎人スポーツ・パーク	11,291人	9,434人
新小針領家グラウンドA	3,589人	2,303人
新小針領家グラウンドB	5,560人	4,233人
総合運動場	21,812人	20,434人

(2) 学校体育施設開放事業

< A E D借上料：315,048円、夜間照明維持管理 398,536円ほか>

すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として、施設が開放されており市民のスポーツ活動の拠点として利用され、施設の維持管理を行った。

<登録状況>

区分	平成30年度		令和元年度	
	団体数	利用人数	団体数	利用人数
小中学校施設利用団体	133団体	2,811人	132団体	2,517人
夜間照明施設利用団体	8団体	272人	8団体	263人

(3) 総合運動場整備工事<工事請負費 11,000,000円>

グラウンド面（C面・D面）の内野部分の表土の入れ替えを行った。

3 上記2に対する評価

(1) 既存の体育施設については、指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社による備品の更新や必要に応じた補修及び点検等により、良好な維持管理を行ったが、

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用人数が減少した。

また、(公財) 桶川市施設管理公社が行った「サン・アリーナ」の利用者アンケート調査の結果として、72%の利用者から「満足」との回答があった。

(2) 学校体育施設開放事業については、AEDの維持管理を行い、桶川中学校に備付けてある夜間照明施設の点検等により、良好な維持管理を行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用人数が減少した。

(3) 総合運動場のグラウンド面(C面・D面)の内野部分の表土の入れ替えなどの環境改善を実施したが、令和元年台風第19号、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用人数が減少した。

4 今後の取組方針

(1) 体育施設・学校体育施設について、備品の更新、施設の補修、点検等の維持管理を行う。

(2) 総合運動場の環境を改善する改修事業を継続する。

5 令和2年度の目標(値)

(1) 体育施設・学校体育施設の利用環境を良好な状態に維持する。

(2) 総合グラウンド構想に基づき、既存の屋外体育施設である総合運動場の環境改善に繋がる改修事業を継続的に実施する。

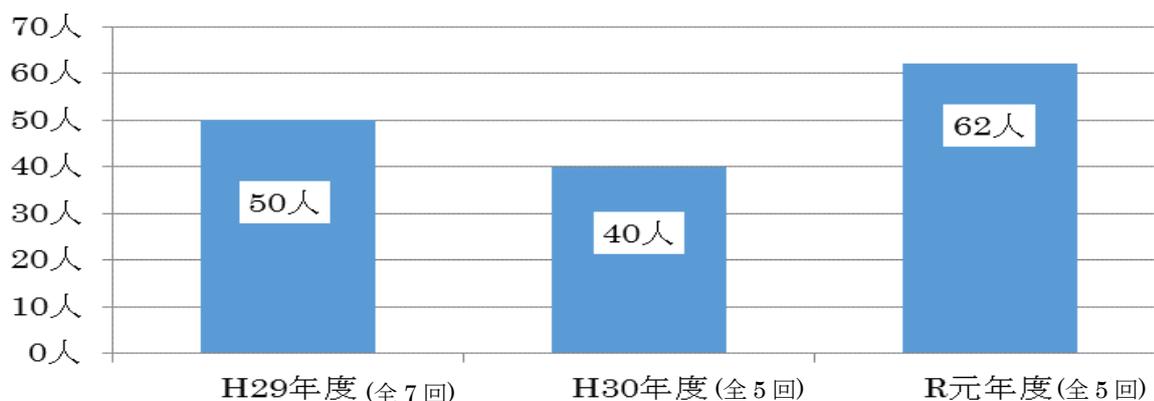
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	幼児・家庭教育セミナー事業		
予算額	125,000円	決算額	94,350円

1 事業概要

幼児・小学生をもつ親を対象に「幼児教育」「家庭教育」について学び、活かすことができる保育付きの講座を5回開催した。

2 事業実績

回	講座名	実施日	定員	参加人数
1	スクラップブック	5/29	20	13
2	安全な食生活	6/12	20	11
3	ストレッチとヨガでリフレッシュ	6/26	20	17
4	バランスボール	11/6	15	13
5	小学校から見た子どもの育ち方	1/29	20	8
	計		95	62

幼児・家庭教育セミナー参加者推移**3 上記2に対する評価**

平成25年度をピーク（214人）に減少傾向が続いていたことから、平成30年度より各回募集とした結果、令和元年度の受講者を増やすことができた。

4 今後の取組方針

子育て世代のニーズ把握を引き続き行い、グループワークでの学習や、他課との事業連携などの模索を行う。また、PR方法を検討、試行し、参加者の増加につなげる。

5 令和元年度の目標（値）

31名（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公民館講座の定員を半数としたため、前年度の50%を目標とする）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,237,000円	決算額	1,164,000円

1 事業概要

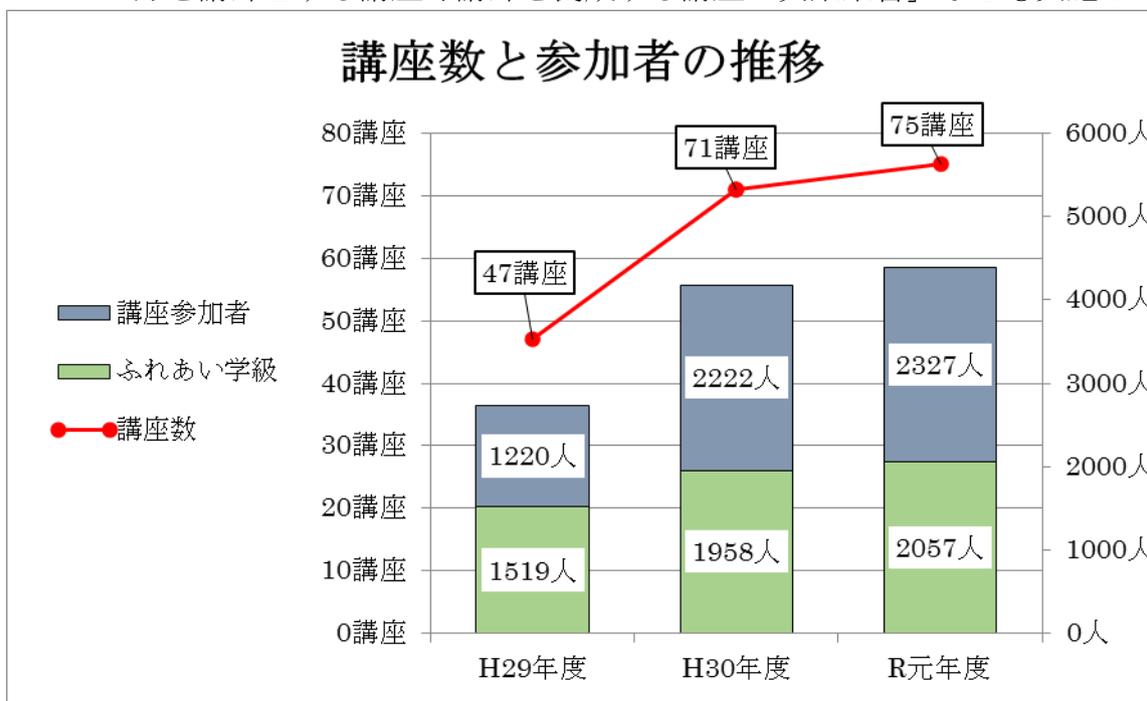
学習意欲のある市民の多様なニーズを捉え、様々な機会に、時代に即した質の高い講座を提供する。

2 事業実績

世代間交流、高齢者、子育て支援などをテーマとした講座を4館合計で81講座（ふれあい学級を含む）を企画し（新型コロナ対策により7事業は中止）、75講座を実施した。

夏休み期間中に実施してきた「夏休み子どもワールド」に加え、今年度はクリスマス期間中にも全館同一テーマで集中的に講座を開催した。

サークルの方を講師とする講座や講師を養成する講座「笑来楽習」なども実施した。



3 上記2に対する評価

前年度実績の71講座を上回る75講座を実施することができ、受講者は4,384人を数えた。また、講座終了後には、新たにサークルを6団体結成することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 自己表現、自己実現、地域課題解決等のため、講座を開催する。
- (2) 世代間、地域間の交流を図るサークル活動を支援する。

5 令和2年度の目標（値）

目標値（40講座）達成と新規サークルの結成
 （新型コロナウイルス感染症拡大の影響による2か月の休館と、講座準備の影響を考慮し、前年度の企画講座数の50%を目標とする）

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	公民館業務運営事業		
予 算 額	22,684,000 円	決 算 額	20,962,064 円

1 事業概要

市民に社会教育活動の場を提供するために必要な公民館施設の管理運営を行う。

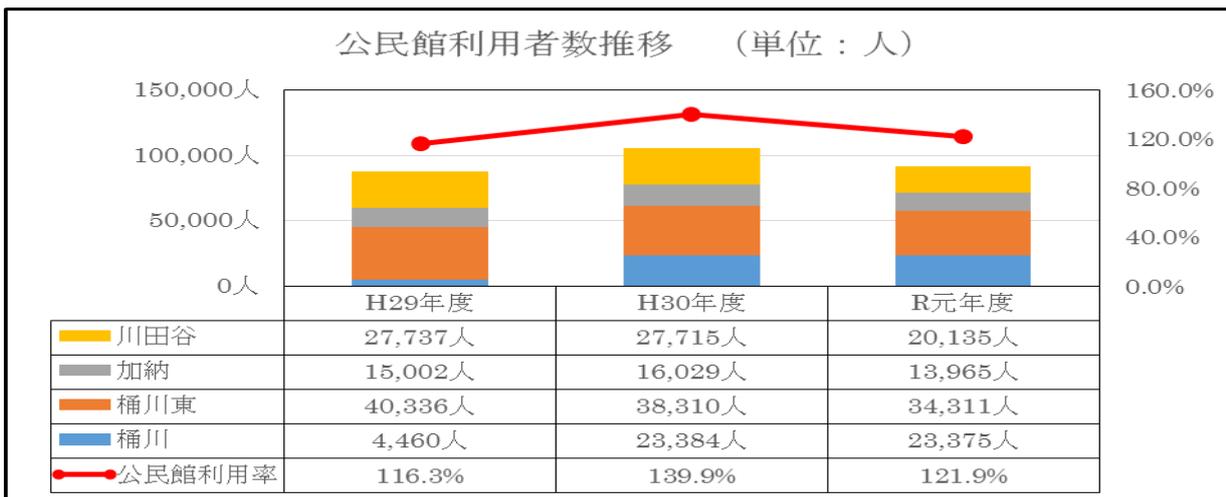
2 事業実績

(1) 非常勤公民館長の任命と公民館運営審議会委員の委嘱

令和元年度は、有識者や利用者などの意見聴取の場となる公民館運営審議会委員の委嘱を行い、社会教育委員、生涯学習推進会議委員との合同研修において大学より講師を招き、社会教育を取り巻く近年の状況等について集中的な講義を行った。

(2) 公民館利用の状況（利用者推移と利用率）

令和元年度は、講座事業を積極的に展開し利用者の拡大を図ったが、坂田コミュニティセンターのオープンや新型コロナウイルス感染症拡大防止による利用自粛の影響もあり利用者数、利用率ともに減少した。



3 上記2に対する評価

- (1) 講座等の企画・実施に際し、有識者らから意見聴取を行い参考とした。
- (2) 公民館利用率（年間公民館利用者数/市人口）は、目標に届いていない状況である。

4 今後の取組方針

- (1) 見直した公民館利用の手引きに基づき、新規利用者の受け入れを行っていく。
- (2) サークルの高齢化傾向が認められるため、改正した公民館サークル育成要綱により、育成を行うとともに、既存サークルによる新規会員向けの事業を実施する。
- (3) 指定管理制度が図書館においても始まるなど、社会教育を取り巻く環境も変化している中で、他機関とも連携を図り、多様な市民ニーズに応じていく。

5 令和2年度の目標（値）

- (1) 公民館利用率62%（新型コロナウイルス感染症拡大の影響による2か月の休館と、その後の部屋の定員を50%として見込んだため、前年度目標値150%の5/12を目標とする）
- (2) 新型コロナウイルス感染予防対策の実行と、利用者へのリスク周知を図り、館内感染を発生させない。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	生涯学習センター管理事業		
予算額	29,459,000円	決算額	29,019,462円
1 事業概要			
生涯学習実践の拠点施設として、生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館及び川田谷公民館、川田谷図書館が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。			
2 事業実績			
(1) 生涯学習センター共通			
利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わり、主に以下の事業を実施した。			
ア	設備保守委託		15,804,732円
イ	建築設備定期調査報告等業務委託		148,500円
ウ	施設修繕料		
	消防用設備・非常用照明器具交換修繕		1,117,800円
	排煙設備修繕		1,281,096円
	正面玄関ガラス修繕		272,250円
(2) 川田谷公民館			
ア	施設修繕料		
	スポーツホール系統パッケージエアコン修繕		894,780円
3 上記2に対する評価			
(1) 施設利用者の安全管理や利用にかかわる施設の改善を図ることができた。			
(2) 川田谷公民館の利用環境の改善を行うことができた。			
4 今後の取組方針			
施設の現状や課題、令和3年度に予定されている生涯学習センターの大規模改修工事との整合性を図りながら、修繕を計画的に進めていく。			
5 令和2年度の目標（値）			
① 施設の点検を定期的実施する中で、各施設の現状の課題改善に取り組む。			
② 「新しい生活様式」に則り、消毒液の確保、非接触型体温計の設置などの施設管理を行うとともに、利用者にも協力を呼びかける。			
③ 川田谷生涯学習センターの大規模改修工事に向けて、関係課や指定管理者と連携を図りながら、計画的に改修工事に向けての準備を進める。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	川田谷生涯学習センター大規模改修事業		
予算額	18,500,000円	決算額	16,280,000円
1 事業概要			
<p>川田谷生涯学習センターは、平成4年の開館から27年が経過し、漏水や空調機器の一部が使用不能となっているなど、老朽化が著しい。</p> <p>このことから老朽化対策として建物の長寿命化を図るため、平成29年3月に策定（令和元年12月改定）した「桶川市公共施設等総合管理計画」、同「個別施設計画アクションプラン（第1期）」に基づき、大規模改修事業を実施する。</p>			
2 事業実績			
<p>今年度は、川田谷生涯学習センター大規模改修工事に向けての設計業務を、都市整備部建築課に執行委任により実施した。</p> <p>【業務委託名】 川田谷生涯学習センター大規模改修工事設計業務委託</p> <p>【業務委託金額】 16,280,000円</p> <p>【業務委託業者】 ㈱深谷建築設計工房</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>関係各課・館との協議を踏まえ、改修工事の内容、工事金額の算出など、大規模改修に必要な設計調書等が仕上がり、令和3年度からの改修工事に向けて準備を整えることができた。</p>			
4 今後の取組方針			
<p>「桶川市公共施設等総合管理計画」、同「個別施設計画アクションプラン（第1期）」に基づき、大規模改修事業を実施する。</p>			
5 令和2年度の目標（値）			
<p>① 設計内容の詳細について、引き続き生涯学習文化財課、公民館、建築課等の関係各課・館、指定管理者と調整を図り、再開館までのスケジュールの作成・進行管理を行う。</p> <p>② あわせて、歴史民俗資料館については、早期に基本方針・基本構想をまとめるとともに、文化庁と収蔵する国指定重要文化財の取り扱いについて協議し、本体工事の設計内容との整合性を確保しながら展示設計を行う。</p> <p>③ 大規模改修工事と関連する、引越等の準備や工事完了後の再開館に向けての準備などに取り掛かる。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	文化財の保存と継承 (2064)		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	2,895,000円	決算額	2,757,066円
1 事業概要			
地域の歴史、文化に関わる資料について、調査、収集を行い、これを収蔵した。			
2 事業実績			
(1) 資料収集事業 [消耗品費 131,507円、印刷製本費 7,210円]			
ア 有形資料：不動明王(石仏)、民具(上日出谷地区)、 国登録有形文化財「島村老茶舗店舗兼主屋」関係資料			
イ 無形資料：倉田囃子音源記録(倉田地区)			
ウ 歴史資料：加藤家文書			
(2) 資料調査事業 [報償費 3,000円]			
ア 歴史資料調査：加納小学校の学校関係資料、桶川宿商家店先絵馬、桶川宿古絵図、 戦争関係資料			
イ 無形文化財調査：桶川祇園祭、狐塚愛宕神社祭礼、薬師堂地区・倉田地区村回り、 小針領家地区ささら獅子舞、松原地区ささら獅子舞			
(3) 資料収蔵事業 [補助員賃金 1,887,990円、共済費 5,551円]			
保存処理事業終了後の国指定重要文化財「後谷遺跡出土品」の再収蔵 縄文土器及び土製品 15点			
(4) 資料管理業務 [委託料 721,808円]			
ア 特別収蔵庫の酸除去用浄化剤の交換を委託にて実施した。実施期間：5月24日			
イ 収蔵環境調査を委託にて実施した。実施期間：7月19日～8月16日 実施場所：一般収蔵庫、特別収蔵庫、展示室			
ウ 燻蒸・殺虫業務を委託にて実施した。実施期間：3月17日～20日 燻蒸・殺虫の対象とした資料：民具、古文書、歴史資料等			
3 上記2に対する評価			
本事業は、歴史民俗資料館の最も基礎的な業務として実施した。			
(1) 資料収集事業は、依頼に基づき新規資料を収蔵できた。			
(2) 資料調査事業は、調査を継続的に実施しており、デジタル保存を行うことができた。			
(3) 資料収蔵事業は、生涯学習文化財課と連携し、文化財の保存業務として実施した。			
(4) 資料管理業務は、環境調査の結果等を踏まえ、一般収蔵庫・特別収蔵庫及び展示室の資料について燻蒸・殺虫業務を実施した。			
4 今後の取組方針			
(1) 資料の収蔵環境を整え、IPMの手法により資料の管理体制の確立を目指す。 ※ IPM：有害生物が住みにくく、生まれにくい環境を総合的に講じる防除手法			
(2) 構築された資料管理システムを活用し、収蔵資料についての公開を順次進める。			
5 令和2年度の目標(値)			
(1) 総合的有害生物管理(IPM)による収蔵資料の管理を徹底する。			
(2) 資料管理システムを資料管理の核とし、未登録データの登録や既存データへのデジタル画像付与などの業務を計画的に進め、活用を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	多様な学習機会の提供 (2041)		
事業名	教育普及事業		
予算額	271,000円	決算額	195,964円

1 事業概要

桶川の歴史と文化を、展示及び講座をとおして市民に広く伝えた。

2 事業実績

※ 令和元年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月3日から休館した。

(1) 展示事業—企画展・資料展示〔消耗品費 106,214円 印刷製本費 79,750円〕

テーマ	開催日	参観者数
「戦時の桶川—戦時の学校と郷土の兵士—」	8月4日～8月25日	378名
「古代の国づくりと宮ノ脇遺跡」	11月23日～12月22日	925名
「描かれた町と村」	2月16日～3月1日 (途中終了)	157名
「桶川の夏祭り」(※資料展示)	7月～8月	

(2) 講座事業〔報償費 10,000円〕

ア 特別文化財講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「山野の開発と古代国家」 田中 広明 氏	12月8日	42
「近世の絵図が語るもの—絵図から地図へ—」 杉山 正司 氏	3月8日	中止

イ 企画展示—解説講座

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「戦時の桶川—戦時の学校と郷土の兵士—」 資料館職員	8月18日	17名
「宮ノ脇遺跡の発掘調査から」 橋本 富夫 氏	12月1日	40名
「描かれた町と村」 資料館職員	3月1日	中止

ウ 資料解説講座—シリーズ「一品」の世界

テーマ及び講師	開催日	参加者数
「ミミズク土偶」は雄弁です—後谷遺跡出土品— 田部井 功 氏	6月23日	33名
「筒形銅器」は海を渡る—熊野神社古墳出土品— 橋本 富夫 氏	7月28日	38名
村の城と戦国時代の暮らし—加納城復元模型— 資料館職員	9月29日	34名
古図を読む—桶川宿古絵図— 資料館職員	10月27日	40名
絵物語「布屋庄左衛門の店先」—桶川宿商家店先絵馬—資料館職員	1月19日	31名

(3) 体験学習事業

事業名	開催日	参観者数
第25回べに花まつり関連事業「紅花染め体験」	6月15日・16日	72名

(4) 連携交流事業

ア 博学連携事業

事業名	参加校	参加者数
小学校3年生社会科に関わる見学	市内5校、市外3校	465名
小学校6年生社会科に関わる支援	市内1校	102名
小学校総合的学習の時間に関わる支援	市内1校	222名
中学校総合的学習の時間に関わる支援	市内2校	284名

イ 公民館との連携事業

事業名	開催日	参加者数
石ころに学ぶ 「荒川の岩石」と「縄文の石器」にふれてみよう	8月3日	13名

ウ その他の連携交流事業

事業名	実施回数	参加者数
郷土史・社会教育団体に対する見学、小講座	3回	44名
その他市民団体との連携事業	1回	20名

(5) 展示参観者数

摘要	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入館者数 (人)	6,999	7,252	6,730
開館日数 (日)	286	287	258
1日あたり入館者数 (人)	24.5	25.3	26.1

3 上記2に対する評価

市民相互の交流促進として、特に、2年目となった県の「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」でのモデル校である桶川小学校と加納中学校との取り組みが、博学連携事業として地域学習に注力することにつながった。

展示施設の更新が行われていないなどの理由から入館者数が伸び悩んでいる。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業を途中終了や中止として約1か月の休館による影響を受けた。しかしながら、テーマを掲げた展示と関連する講座の開催、さらには資料解説講座のシリーズ化（「一品」の世界）などの企画の成果として、年間の結果では開館日1日あたりの入館者数は微増となった。

4 今後の取組方針

- ① 企画展示や講座の開催にあたっては、引き続き地域の課題を積極的に取り上げる。
- ② 市民団体や青少年団体、指定管理者を含む民間との連携による事業展開を進める。
- ③ 法改正に伴い、観光振興の側面からも市内外への情報発信を積極的に進める。
- ④ 常設展示のリニューアルに向けて構想の策定を進める。
- ⑤ 後谷遺跡の重要性がPRできる事業を進める。

5 令和2年度の目標(値)

- ① 展示業務—企画展示：年間2～3回 資料展示：3回以上
- ② 講座事業—特別文化財講座：1回 企画展講座：3回 資料解説講座3回以上
- ③ 小・中学校とも連携を図りながら、地域学習を深める。
- ④ 展示参観者数：7,500人の参観者を旨す。

永原 敏明

令和元年度の事業実績についてはどの事業も評価できるものと感じました。また、掲げられている「今後の取組方針」や「次年度の目標（値）」も桶川市の教育行政が未来を見据えて進められていることが確認できました。

I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

学校環境の整備充実は重要です。老朽化対策として小・中学校のトイレ改修工事が進められており計画通り進められています。ICT機器の活用に関しても多くの教科指導で工夫して活用されています。また、教職員の資質・能力の向上推進事業では学校課題研究の取組、市教委主催研修会などが実施されており成果もうかがえます。学校教育の充実を図るための指導員、指導補助員、支援員等の配置についても評価できます。今後も教員の指導力向上に向けた研修の充実に期待します。

国のGIGAスクール構想の実現や小学校での外国語の教科化に伴う研修の充実に期待します。また、新型コロナウイルス感染症対策についても学校に対しての指導・助言等もお願いします。

II 豊かな心の育成と人権意識の高揚

さわやか相談員・スマイル相談員の学校への配置、スクールカウンセラーの配置、スクールソーシャルワーカーの派遣などは重要な事業です。相談件数も増加しており支援を希望する児童・生徒が今後も増加することが推測されます。相談員の増員などに期待します。

また、学校図書館の利用数が増加していることは学校図書館の運営の工夫の表れと思います。読書の習慣は豊かな心の育成に重要な役割を持っています。学校図書館の更なる充実を望みます。

III 健やかな躰の育成

児童・生徒の心身共に健やかな躰の育成には教員の研修が重要です。体育主任対象の研修会や養護教諭対象の研修会が計5回実施されており評価できます。スポーツ施設の維持管理は安全が第一と考えます。危険な個所の点検を怠りなく行っていただきたいと思います。

IV 家庭・地域の教育力の向上

各学校に学校応援団が設置され、様々な支援活動が行われています。地域の活力による学校支援は児童・生徒の安心安全だけでなく心身の健やかな発達にも大きな影響力を持ちます。今後の継続に期待します。

小・中・高のPTAが合同で行う「PTA家庭教育講演会」や市内全小学校に設置されている放課後子供教室は県内でも注目されるような取り組みだと思います。

V 生涯にわたる学びとスポーツの支援

市民の「学びたい」という気持ちに応えるための講座が多く組まれていると思います。市職員による出前講座は講座数、参加人数ともに増加しています。市民と行政との交流を深めるという目的はほぼ達成できたのではないのでしょうか。「桶川市民大学（平成市民大学）」や「子ども大学」は大学の研究者を要請しての講座が多く組まれており大いに評価できます。

人権教育推進の観点では成人学級講座が6回行われており、95%が満足またはやや満足という結果だったことは評価できます。

VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

桶川市は歴史的な文化財が多い市だと思います。その文化財の収集、調査、収蔵、展示公開等を担っているのが歴史民俗資料館です。桶川市民に限らず多くの方に足を運んでもらえるよう地道な努力に期待します。

各学校教職員および教育委員会、関係者の皆さんが、コロナの厳しい状況下、児童生徒の実態を踏まえ、課題解決のため、日々の教育活動や各種研究に取り組まれていることに敬意を表します。

・教職員の事故、病休者数及び臨時的任用教員の数などを日数、市費負担費用などともに明示されています。補助教員などの配置についても、教員数とともに、日数が減っていることも合わせて表記されていて、予算縮小の現状と課題が共有化できるものとなっています。人数・日数や費用などの数値化・見える化は今回の点検評価報告書全体に通じる理念であり、今後も継続してほしいことです。

・人権作文と人権メッセージの4000件を超える応募、人権作文集「かがやき」の全児童生徒配布、学校管理職の現地研修、人権教育担当教諭による「人権感覚育成プログラム」への参加など地道な取り組みが継続されています。コロナ感染者への偏見・差別を取り上げた授業の取り組みもお願いします。

・GIGA スクール構想およびICT教育の推進に努め、児童生徒一人一台端末の整備に道筋をつけたことを高く評価します。臨時休校時や不登校の児童生徒支援のため、双方向オンライン授業の実現に向け、さらなる環境の整備、教職員の研修の実施を計画的に、各方面の理解を得ながら進めてください。

・学校図書館、市内4館での貸出冊数がともに増加しています。全小中学校に補助員を配置するなどの取り組みの成果でしょう。イベントの自粛傾向が続く中で、本を通し、世界を広げたいというニーズは高まるものと思われます。魅力ある本を選定し、本好きな子どもや市民のニーズに今後も応えてください。

・不登校、いじめの件数、教育センターやさわやか・スマイル相談員・スクールカウンセラーへの相談件数や適応指導教室通室人数など、4年間の推移が明示され、きめ細やかな対応を行なっていることが窺われます。今後は相談などに来ていない不登校児童生徒数など、さらに現状と課題を明らかにしてください。

・西小、加納小の通級指導教室では28名の児童が支援を受けています。令和2年度は市内3中学校に新たに開設され、今後も通常学級に在籍する発達障害などの児童生徒の希望が増加することが見込まれ、指導者の育成が急がれます。市内全小中学校での通級指導教室の設置も目指してください。

・昨年度、加納小と川田谷小に設置された学校運営協議会は地域住民が学校運営へ協力や参画し、学校や地域の課題に取り組む組織であり、令和3年度からは市内全校に導入されます。『地域とともにある学校づくり』の中心となることが期待され、地域住民や教職員の理解を深めることが急務です。

・教育委員会は主催研修会、学校訪問、学校課題研究への指導により、各学校の課題解決や教職員の資質・能力の向上に努力されています。今後は教職員の健康状態などに配慮し、『コロナ後』の教育の変化に対応した研修方法を取り入れ、今回のコロナの状況を踏まえた内容の研修をお願いします。

・子どものネットトラブルを防ぐための講演会の開催や青少年健全育成指針の見直しなど、近年の青少年を取り巻く状況に沿った事業展開が行なわれています。コロナ感染予防の観点から中止を余儀なくされる事業も多いと思いますが、スポーツ・文化団体も各種団体も安全第一で活動を進めてください。

・台風19号被害や老朽化、白蟻被害などに対し、数々の既存の指定文化財の現状確認と修繕を行い、また島村老茶舗が国登録有形文化財の登録原簿に新たに登録されるなど、文化財の保存・活用の推進に努めています。写真付きの報告書は、これらの事業への関心は高まることでしょう。

令和2年度 点検評価報告書
編集・発行 桶川市教育委員会

令和2年8月発行
〒363-8501 埼玉県桶川市泉一丁目3番28号
電話：048-786-3211 (代)
F A X：048-786-5043
E-Mail：kyoikusomu@city.okegawa.lg.jp

